

FIRST LINES  
OF  
ENGLISH GRAMMAR  
BY  
GOULD BROWN  
TRANSLATED BY K. NAGANO.

日本  
吉岡氏蔵版

英  
語  
文  
法  
講  
義

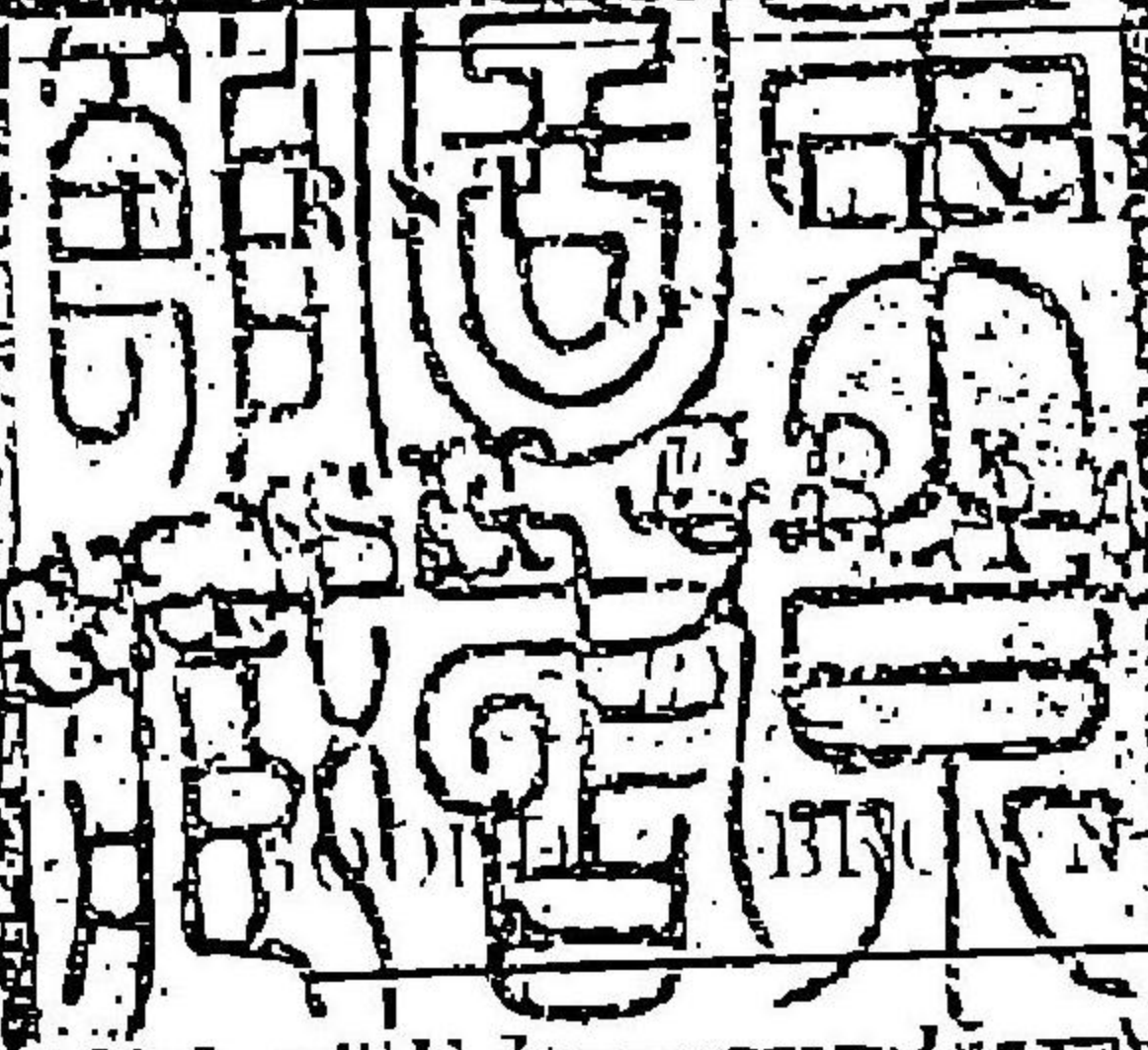
米國  
ゴールド  
ブラウン  
氏原著  
日本  
織田純一郎先生校閱  
長野一枝先生講義  
編前

CSAKA:

H. YOSHIOKA, BINGOMACHI.



特27  
95



H. YOSHIOKA, BINGOMACHI, OSAKA.

日本  
吉岡氏蔵版

# 英和辭典

OSAKA

H. YOSHIOKA, BINGOMACHI.

米國  
ノールド  
フロン  
氏原著  
日本  
織田純一郎先生校閱  
長野一枝先生講義  
編前

昭和二十二年四月廿六日 内務省登録 特27 95



ブ라운氏原著 英吉利文典講義

一名英吉利文典獨修

凡例

一 近來英語を學ぶ者日に月に増加す、而して學校に私塾に音讀直譯の教を受ると雖も生徒中其意義の解し難さに苦む者寡からせ、中に就き文典の如きハ初學の徒にハ解し易からざる所太だ多しとす、是れ余が此講義を著はす所以の要旨なり

一 本書は GOLD BROWN 氏の著述に係る FIRST LINES OF ENGLISH GRAMMAR を平易に翻譯し其意味を敷延し且間々他書を參酌して其足らざるを補ふ所あり、故に本書を一讀する時は英吉利文法の要領



を得て更に高等の文典を讀むに當り毫も勞せむして容易に意義を解するを得べく且能く本書の説く所を會得するに於ては普通學科を修むる丈けに文法上に付別に不足を感ぜる所なかるべし

一余が初志は群書を參酌して單簡に英吉利文法の要領を説くに在りて一旦稿を起せしが已にして以謂く別に獨自の書を著さんよりは寧ろ現今學校家熟等の教科に入り専ら世上に行はるゝ初學の書を探みて講義を附する時の一は以て生徒受業の便を輔け一は以て初學の徒をして英文を解釋するの法を習ぬしむるの益ありと是を以て中

途にして稿を棄てブロウン氏の文典初歩に依る事となしたるなり故に本書たる縱令其原書にして教科中に廢せられ他書に換る事あらんも英吉利文典は即ち英吉利文典に相違なくして其説く所一なるを以て本書を一讀し置く時他の文典書を讀むに裨益する所太だ大なりとす

一本書中括弧を以て包括せる所の譯語又の原文の意を敷延細述せし者又の講述者の附言に係る

一本書中特に文法上に用ゐる稱呼の語の譯語を以てせきして原語を以て記し更に其下に譯語を挿入し或の之を省略する所以の者の初學の徒をして務めて専門の原語を記憶せしめん事を圖るに在



TABLE OF CONTENTS

英吉利文典講義目次

正字法

- 第一課 説話又は國語の事 二 丁
- 第二課 觀念、思想、及び言語の事 六 丁
- 第三課 文字、連字及び言語の事 十二 丁
- 第四課 復習兼定議 十七 丁
- 第五課 文字及び切音字の分類 二十 丁
- 第六課 言語并に其分類及び  
解体の事 二十五 丁
- 第七課 綴字法 三十 丁
- 第八課 大字の事

言語法 第一套

り  
 一本書中、頭に掲出せる語の原書中初學の徒の之  
 を字典に索るも適當の譯語を見出すに感ふべし  
 と思惟せらるゝ者を抜摘収集したる者なり、但毎  
 課の語の必き其課の齣頭に之を出し一々原書の  
 丁數を示せり、且一回出せし語の後再び之を出さ  
 ざる者多し



TABLE OF CONTENTS

○ 第一課	事物の名号の事	五十四丁
○ 第二課	文主と文賓の事	五十七丁
○ 第三課	文章の事	六十三丁
○ 第四課	名詞と代名詞の事	七十一丁
○ 第五課	動詞の事	七十七丁
○ 第六課	冠詞と形容詞の事	八十二丁
○ 第七課	補助詞の事	八十九丁
○ 第八課	分詞の事	九十三丁
○ 第九課	副詞の事	九十七丁
○ 第十課	接續詞の事	百丁
○ 第十一課	前置詞の事	百五丁
○ 第十二課	感嘆詞及び言詞の品類	百九丁

二

TABLE OF CONTENTS

○ 第十三課	復習兼定義	百十三丁
○ 第十四課	詞性の説明の事	百十九丁
○ 第十五課	文章の解剖の事	百二十八丁
○ 第十六課	構文及び編文の事	百三十六丁
同 第二套		
○ 第一課	冠詞の事	百四十四丁
○ 第二課	名詞及び其分類	百四十七丁
○ 第三課	人稱と單複數の事	百五十一丁
○ 第四課	性と格の事	百六十三丁
○ 第五課	形容詞の分類	百八十三丁
○ 第六課	形容詞の變化	百八十八丁
○ 第七課	代名詞の分類	百九十三丁

三



TABLE OF CONTENTS

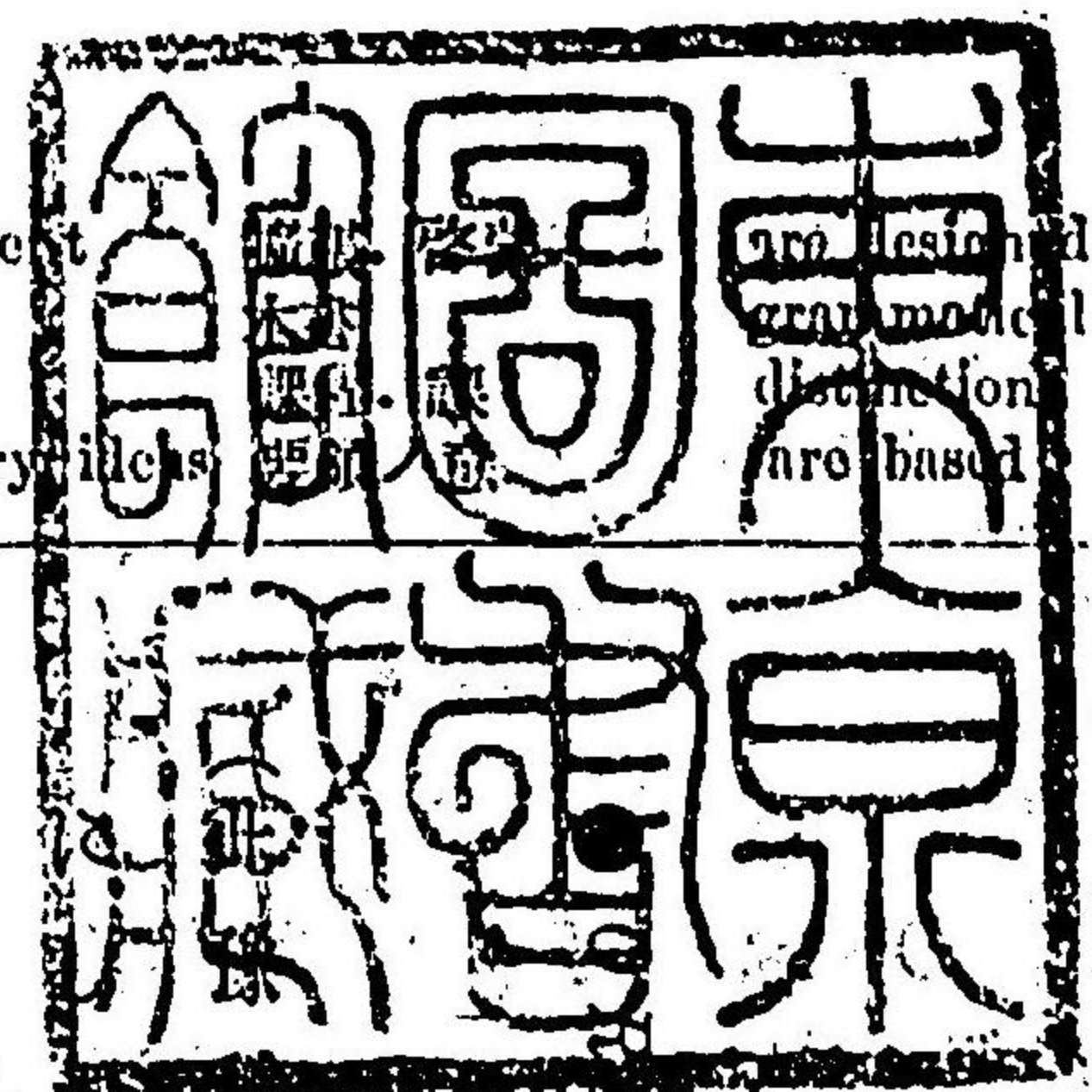
四

- 第八課 代名詞の變化及び整位 百九十七丁
- 第九課 動詞の分類 二百廿一丁
- 第十課 動詞の變化 二百三十丁
- 第十一課 動詞の配合 二百四十二丁
- 第十二課 分詞の分類 二百七十丁
- 第十三課 副詞の分類 二百七十九丁
- 第十四課 接續詞の分類 二百八十八丁
- 第十五課 前置詞 二百九十五丁
- 第十六課 感嘆詞又問投詞 三百丁

目次 終

計画シテアル  
文法上ノ  
稱呼。區別  
基礎トセラル。

development  
text  
lessons  
elementary



氏  
原著 英吉利文典講義

一名 英吉利文典獨修

織田純一郎 校閱

長野一 枝 講述

第一部

PHOENIX (正字法 語を正しく綴るの法を説く)

豫科及び本科の課程の事

その左の本文の意旨を以て設けたる課程

即ち本部の第一課より第四課に至る間の

如きを云ふなり

茲に豫課を設る所以は生徒をして文典上に用る諸



記憶  
啓述スル  
思想  
並ニ又々

memory  
express  
thoughts  
as well as

會得セラレ  
定義  
規則  
附セラル、

be conceived  
definitions.  
rules  
are committed

種の稱呼の由て起る大意を知らしむるの助となさ  
んどの意にあり故に本課の定義や規則を記憶せし  
むる事に取り掛る以前に豫課中に示せる文典上の諸  
般の稱呼を明亮に會得せしめ置く事太だ肝要なり  
とす

(上文は特に教師たる者の心得に記述せる者と知  
るべし)

○第一課 LANGUAGE(説話)又ハ國語の事

問 口と言ひ又は書に寫して吾人の心に思ふ所を  
啓べんに必ず如何様の者を用ひねばならざ  
るか

答

Words(言語)なり

問 斯く吾人が心に思ふ所を啓るの法を名づけて

何と稱るぞ

答

LANGUAGE(説話)と稱るなり

(Languageは此處にて、説話の意なれども又國語  
と譯する方穩當なる所あり)

問 世界中の人々が皆な一樣の language を用るので

あるか

答 否な、然らば異なる國々に住める人々は大概夫

々異なる languages(國語)を用るなり

(此處に大槩と答へたる意は下に説ける如く亞

米利加合衆國にて英語を用る等の例あるに因

り)



問 此國に於てハ吾人は如何なる language を用るか

答 吾人は English language (英語) を用るなり

問 language を用るの法幾干あるや

(辭を更へて此問の意を解けバ「語を用ひて吾人の心に思ふ所を啓るに其法が幾干あるぞ」と云ふ事あり)

答 二あり即ち一ハ口に言ひ一ハ書に寫すを以てするなり

問 然れば又 language の種類が幾干あるや

(説語の種類又ハ國語の種類と云へバ世界万國に行ハる、言語の種類と云ふ事の様に聞ゆれども此處も前の問と同様にて語を以て心に思

ふ所を啓る種類と解すべし)

答 二あり即ち一は口に言ふたる language 一は書に寫したる language 是なり

問 孰れの國々にて English language を話すや

答 英國と他の或る國々と又亞米利加合衆國とにて話すなり  
如何にして language を正しく用ゆべきか其道を知らんには是非とも其國の文典を學び習わねばならざるなり

英吉利文典は即ち English language を正しく話し正しく書くの法を教る者なり



用辨スル。服事スル  
導キ來ス  
目撃シタル  
喚ビ迎ヘル

serve  
bring  
observed  
recall

思ヒ出ス  
的(モノ)。者  
例ヘバ  
得セシム

think of  
object  
for example  
enables

○第二課 IDEAS(觀念) THOUGHTS(思想) 及び WORDS

六

言(言語)の事

汝は汝が曾て目に視たる者は何に限らざる例へば之を假に一株の樹と定めんか其樹は汝が視たる通りを汝の心の内に影像又は畫圖の如く其形を描き出して宛ら實物を視る如くに心に思ひ出すを得るなり其心の内に思ひ起したる影像又ハ畫圖を名づけ樹の IDEA(樹より起る觀念)とは云ふなり然れば其樹と云へる word(語)は汝をして口に云ふか將た書に寫すか孰れの道にも ideas を啓へ出せしむる者なり又都て words(言語)は曾て吾人が視たる所の事物の ideas を心に思ひ起せしむる効用をなす者なり、前文の然

之ニ因テ  
諸官能即チ視・聽・聞・觸・ナヲ  
關聯シテ

Hence  
senses  
related

媒介(ナカタチ)  
全フス  
目撃・觸目  
媒介ニ由テ

means  
do  
sight  
through

れ。以下の一章は觀念が先きに起りて之を言語に寫し出す場合の事を云ひ又以下の一章は言語を聞き或は其書き記したるを視て其何物たるの觀念を心に起す場合の事を云ふなり、故に余は心に種々様々の事物を思ひ出し之を左の words に寫して其事物の ideas を汝の心中に喚び起すべし

A horse. (一頭の馬)

A black horse. (一頭の黒毛の馬)

A man on horseback. (馬上に於る一箇の人)

A man riding a black horse. (一頭の黒馬に騎る所の一

個の人)

A horse running away with a carriage. (一輛の馬車と俱

七



relations  
one to another  
communicate  
represent

關係  
甲ヨリ乙ニ至ル。相互ニ  
傳達スル  
代表スル

に駈せ去る一頭の馬

レ見るべし斯く余は Ford の媒介を以て汝の  
曾て視たる所の者なれば何にても一事物或ハ  
數事物の ideas 即ち影像又は畫圖を汝の心の内  
に思ひ出さしむるを得るなり、又余は之と同様  
にて汝が曾て聽きたる所の者、嗅きたる所の者、  
味ひたる所の者、觸れたる所の者、をも亦た然ら  
しむるを得ること左の如し

Thunder.—The thunder peals. (雷が轟く)

A rose.—The rose has a sweet smell. (薔薇花の薔薇花の

芳き香を有てり)

An orange.—The orange has a sweet and acid taste. (橘

は甘く且つ酸き味を有てり)

Velvet.—Velvet is soft and smooth to the touch. (天鵝絨の天

鵝絨の觸覺に柔かに且つ滑かなり)

(右の電と呼び起して再び雷が云々を繰り返し

たる下の數語の前に云へる如く耳に聽きたる

所の者の例を擧る所にして上の電と云へる語

は其標題の如き者と見做して可なり)

以上列記する所を汝の心に思ひ出し試よ然する時  
ハ汝は固り之を聽き或ハ之を嗅ぎ或ハ之を味ひ或  
ハ之を觸る様の情感を引起すを得べしとい雖ども  
然れども尙ほ汝が樹や馬などの如き都て目に視た  
る所の物を心の内にて觀る(即ち描き出す)が如くに



の判然と感ぜる能わざる事を曉るべし、是を以て目  
 に視たる所の事物の ideas は之を他の官能(聴く事、味  
 ふ事、嗅ぐ事、觸る事)中の孰れに由て得たる ideas よ  
 りは一層判然なりとの云ふなり  
 凡そ物事を思ひ起すに付て、吾人は様々の法にて  
 ideas (數多の觀念を一緒に結び合するものなり例へ  
 ば The bird builds its nest in the tree. (鳥は樹の中に其  
 巢を結ぶ)  
 と云ふ時の是れ一の單簡なる THOUGHT (思想)の中に鳥、  
 結ぶ事、巢、樹と云へる數種の ideas を一緒に結び合せ  
 たる者なり而して此等數種の ideas は様々の法に由  
 て相互に繋がり合ひて居るなり即ち鳥が結ぶ、巢が

結ぶ、巢は樹の内に在り、と云ふが如し(之を細言  
 すれば鳥が結ぶと云へば何を結ぶかとの問起るべ  
 し、巢を結ぶのであると答れば次に又其巢は何處に  
 在るかとの問起るべし之に答へて樹の内に在りと  
 迄云ぬれば意味完全ならざるを鳥が樹の内に其  
 巢を結ぶと云ふ時は一話の内に鳥、結ぶ事、巢、樹の四  
 種の觀念が一所に籠り居て且其觀念が互に繋がり  
 合ひて一の思想を述べ出し其意味全きを得ると云  
 ふの意なり、是に由て汝は上の一話の内に四種の  
 ideas と此 ideas が相互に關係を結ぶ所の ideas (the, its, in  
 の類)とがある事を知るべし  
 吾人は物事を思ひ起すには次々に數多の ideas を用



pronouncing	發聲スルヲ	whole	完全ノ、全部ノ
proceeds	歩ヲ進ム	etc.	等、云々(et cetera)
human voice	人聲		ノ器語)
parts	部分、零分 (カタワレ)		

十二

るにあらざれば之をなす能わき將た其已に心に寫し出せる Ideas を代表するに WORDS を用るにあらざれば以て明亮に思ひ起し或は我 Thought を他人に知らしむる能わき斯の如く數多の words を用ひて之を法則に照らして正しく結び合せたる所が即ち LANGUAGE を成すなり

然らば何等の者を指して吾人は LANGUAGE と云ふべきか

Language とは口に言ひ又は書に寫すを以てなせる吾人の Thought の表明なり

○第三課 LETTERS (文字) SYLLABLES (一切音)

教師は先づ A, E, F, G, S と云ふが如くに LETTERS (文字) の音を發する(即ち發して生徒に聞かしむる)ことを以て此課を始め然る後左の如く順を逐ふなり

(此處は著者が教師の心得を示したる言と知るべし、以下他の課にも此類多し)

問 此等の音は何の音であるか

答 Letters (文字) の音なり

(此文、字又ハ字と云へる漢字は彼國にてハ之を音に發する時は直に言語となる者にして英語の letters とは性質大に異なるを以て之を letters の譯語に充るは本來太ど穩當ならず寧ろ字母とて



も譯する方可なる様に覺ゆれども己に普通の譯例どもなり居り且我國にて假名文字又ハ伊呂波四十八文字など稱る例もあれば姑く此等の例に従ふ

問 汝は此等の letters の名を告げ得るや

問 汝は又た書きたる時の此等の letters の形を示し

得るや

斯く問ひ起し來らば汝は letter には名稱あり又形体あり且 letters は人類の聲音を代表する者たる事を知るべし  
問 吾人が mean, bo-gy-se-lio-o-l. と云ふが如くに letters を一所に結び合する時は吾人は之を以て何を成

形り做すのであるか

答 吾人は words (語) を成形り做すのである

問 吾人は何時でも此等の法に由て letters を一處

に繋ぎ合せさへすれば夫れで完全の words を成

形り做すのであるか

例へば sil, sil; v-e-r, ver; p-a, pa; p-e-r, per; の如きハ完

全なる words であるか將た words 中の零分である

か

答 是等は words 中の零分でありて之を SYLLABLES (連

字) とは呼ぶなり

問 吾人は何時でも同様の形体を以て letters を書く

のであるか



答 イヤ然らば Letters は種々の形体を有つものである

例へば左の如し

A, B, C, D, E, F, 等の類

a, b, c, d, e, f, 等の類

右の内大なる方を CAPITALS (首字又は大字) と呼ぶ他の一類を small letters (小字) と呼ぶなり、此等二種の letters の体は至て古き者にて二千年餘の古代より羅馬人の用ひたる所なり、是に因て此等の字体を Roman letters (羅馬字) と云ふなり、例へば

A, B, C, D, E, F, 等の類

a, b, c, d, e, f, 等の類

是なり、此等は伊太利人が自國の語を書くに用ゐる字体なるを以て之を Italics (伊太利体) と名づく、又更に他の字体あり、例へば

*John is a good boy.*

の如し、此体は手寫に用ゐる者なり、故に Script (手寫体) と呼ぶなり

○第四課 REVIEW (複習) 兼 DEFINITIONS (定義)

(此一課は是迄説き來りたる所を再述し併せて此正字法中に用ゐる諸般の稱呼の意義を説き定る爲



包括ス  
因由 (ワケ)  
語勢

contains  
sako  
emphasis

記号 (フチヤウ)  
一括シテ

character  
taken }  
together }

めに設る所なりと知るべし。LETTER (文字) は人類の聲音を代表する爲めに使用する記号なり

何れの language (國語) に限らず都て language に用る letters を総括めて之を ALPHABET (語母) と呼ぶなり

(因に云ふ此 alphabet と云へるは希臘の文字の首の二字即ち英吉利の A B と云ふと同様の位地に在る二文字の名を表示せる alpha, beta の二語を取りて一語に作り做したる者にして恰も英吉利にて二十六文字を総稱して通言に A B と呼び又我國にて假名四十八文字を総稱して伊呂波と云ふと同様の意なり)

記号・標識  
完全ナル

sign  
perfect

表別  
大類

distinction  
general }  
of }  
classes }

英吉利の alphabet は二十六 letters を以て成れり此等の二十六 letters に就れも CAPITALS (大字) と SMALL LETTERS (小字) と二様づくの体あり

英吉利の Languages 中の Roman letters (羅馬字) を用るを通例とす然れども場合に依ての語勢を重くし乃ち他の語との區別を立る爲め往々 Italic (伊太利体) を用る事あり

手寫にの script (手寫体) を用る者とす

SYLLABLE (一切音字) とは一口に發音する一 letter 若くは數 letters を云ひ而して自ら words (語) を成す者あり或は words の一部分を成す者あり

WORDS (言語) は何かの ideas (概念) の記号として口に言ひ



又は書よ寫したる一又ハ數多の syllables なり

1 syllable の word を MONOSYLLABLE (一切音語) と呼び 2 syllables の word を DISSYLLABLE (二切音語) と呼び 3 syllables の word を TRISYLLABLE (三切音語) と呼び 四以上の syllables の word を POLYSYLLABLE (多切音語) と呼ぶなり

○第五課 LETTERS (文字) 及び SYLLABLES (切音字) の分類

Letters (文字) を大別して VOWELS (母音字) CONSONANTS (子音字) の二類となす  
VOWELS (母音字) とは a, e, o, i の如く其 letter 一箇丈けにても完全なる音を成す者を云ふなり

CONSONANTS (子音字) とは b, c, d, f の如く vowels に合するに非れハ自ら以て完全に發音する能わざる所の letters を云ふ

(上文の如く母音字は自ら完全の音を發すること、子音字は母音字と合するに非ざれば完全の音を發する能わざること、b, c, d に於るが如しと云ふ時は初學の輩或ハ b, c, d も能く自ら完全に發音する者なりと思ひ惑へるものあるべけれど子音の字は決して自ら完全の音を發するに非ず其 b, c, d をシ、b, c, d をデーと發音するが如きハ畢竟其文字を呼ぶの記号迄にて其文字自身の音にあらざ即ち bee, cee, dee と母音字



を組合せたる者なり。この字を呼びて *double* 即ち  
 累り合ひたる。ユ一<sup>o</sup>字と云ふにても知るべきなり。  
 vowels は a, e, i, o, u の五文字と場所に依て *e* と *y* の二  
 文字が加わる事あり。  
 其他全ての letters (文字) が consonants なり。  
*ff* 又 *ij* は *voine, twine, whine, ye, yet, youth* に於るが如く同  
 一の syllables 中にて發音ある vowels の前位に在る時は之  
 を consonants と呼び其他都て *newly, dewy, eyebrow* に於るが  
 如き場合に於ては vowels なり。  
 大槩の syllables 中に *i* vowels が一字ありて其音を發表  
 する者なり。然れども又 *i* syllable 中に三字若くは三  
 字を結合し合する事も少しとせ。此等の數文字を結

上席スル、先ソズル  
 發音セラレタル

it precedes  
 it heard

び合せたる所が即ち所謂 DIPHTHONGS (二重音) 及び TRIPH-  
 THONGS (三重音) を成り作り做す者なり。  
 DIPHTHONGS (二重音) とは *beat* に於る *ea* sound に於る *ou* の  
 如く *i* syllable の中に vowels を二字重ねたるを云ふな  
 り。  
 PROPER DIPHTHONG (正當二重音) とは *voice* に於る *oi* の如  
 くは二箇の vowels が固ながら音を發する者を云ふ。  
 IMPROPER DIPHTHONGS (不當二重音) とは *loaf* に於る *oa* の  
 如くは二箇の vowels の内にて一箇だけが音を發する  
 者を云ふなり。  
 TRIPHONG (三重音) とは *i* syllable 中に三箇の vowels を重  
 ね合せたる者を云ふ。即ち *beau* に於る *eau* *etern* に於る



ies の如き者はなり。PROPER TRIPHONGS (正當三重音) とは vowels が三字とも音を發する者を云ふ、即ち buoy に於る way の類なり。IMPROPER TRIPHONGS (不當三重音) とは三箇の vowels 中唯一字か或の二字が發音する者を云ふ、即ち beauty に於る eau の類なり。

Exercises (練習)

(此處は第五課中に説き示したる所を充分に記憶せしむる爲めに設けたる者なり) 第一、左の語の内に在る diphthongs (二重音) を指し示せ而して又其 diphthongs が正當音であるか將た不當音であるかを述べよ。

Mean, chief, builder, pointed, despair, receive, ancient, goal, reign, nation, degree, mischief, captain, guardian, coward, fountain, mountainous, prairie, tea-spoon, touch-wood, joyous, journey, jealousy, issue.

第二、左の語に於る triphthongs (三重音) を指し示せ而して又其 triphthongs が正當音であるか不當音であるかを告げよ。

Awe, ewe, anxious, eyelid, beautiful, purlien, quoit, owe, outrageous, cautious, viewless.

○第六課 WORDS (言語) 並に THEIR CLASSES (其分類) の DIVISIONS (其解体) の事

simple 單純  
compound 混合



管理セラル、  
變更スル  
語尾

be directed  
modify  
terminations

木原ノ、生來ノ  
分出ノ、他生ノ  
分解スル

primitive  
derivative  
dividing

Wordsには SIMPLE(單純體)もあり COMPOUND(合成體)もあるなり  
SIMPLE WORD(單純體の語即ち單純語)とは watch, man の如く他の words を混合せざる者を云ふなり  
COMPOUND WORD(合成體の語即ち合成語)とは watchman, nevertheless の如く二箇以上の simple words (單純語)を混合したる者を云ふなり (watchman は watch と man との二語又 nevertheless は never と the と less との三語より成りたる者なり)

Words (語)は又 PRIMITIVE(生來の儘の者)あり DERIVATIVE(變化を経たる者)あり

PRIMITIVE WORD(生來の儘の語即ち生語)とは harm, great,

connect の如く國語中其現體より更に單小なる words を原として作り成したるにあらざる者を云ふ

DERIVATIVE WORD(變化を経たる語即ち變成語)とい國語中其現體より更に小單なる word を原として作り成したる者を云ふ(例へば文典上の語尾を附して語の品類を變し或は他の單小なる語を加へて其意義を變じたる者等の類なり)即ち harmless, greatly, connected の如き者はなり

words を syllables より分解するに専ら耳の支配に従ふべきなり(言を換へて詳細に之を解釋すれば目は能く語を組立てたる文字を視分れども語を syllable に分解する一段に至ては専ら音に關する者なれば能く



耳に一々音を聞き分けて分解せねば誤る事多しと云ふの意なり、左の規則は words を分解するに通則として守るべき條々なり

第一則 Consonants (子音字) は各自の syllable の音に適

合する所に従ふて vowels (母音字) 又は diph-

thongs (重音字) に結合するを通則とす、即ち

ap-*os-tol-i-cal* の如し

第二則 Vowels (母音字) が二字重りありて diphthong

(重音) を成し居ざる時は syllables を分別す

るに一字づつに之を分たざるべからず、

即ち *aer-i-al* の如し

第三則 變成語の語尾及び文法上にて附加した

separate  
prefixes  
in general

獨自ノ別種ノ  
前加  
綴シテ

be disregarded  
case  
may be

留セラレザル  
事態・事例  
アルヲアルベシ

分裂セラル

be broken

殊別ニテ  
意義

otherwise  
import

第四則

る語尾は初之を附加したる本原の語と分離せしむるを通則とす、即ち *harm-less*, *great-ly*, *connect-ed* の如し

Prefixes (前加) 即ち語首に附加したる單小

なる語は概して別に syllables を成す者と

す、即ち *mis-place*, *out-ride*, *up-lift* の如し、但し若

し其語の生來の意味に心を留めざるに

於てハ誤を生ざる事あり、例へば *re-create*

と *re-reate* とは其意味互に相異なる語なる

に於るが如し

第五則

Compounds (合成語) を分解するにハ分ちて元之を組立てたる所の simple-words (單純語)



となすべし即ち、no-whereの如し

第六則 一行の終尾に至て止むを得ざる場合に

の word は之れを分割するを得、然れども

syllable は決して之を中斷するを得む

(此第六則の意を細言すれば文章を手草し又は之を印刷に附するに當り一行の終に至て一語を載せ盡すの餘地なき事あり此場合に臨み語は之を分ちて次行に送るも妨なし、然りながら其語を分つにも syllable の界目にて分ち「syllable」の中を二に裂く事を許さざると云ふにあり)

Exercise, (練習)

左の words を正當なる syllables に分解せよ

Vengeance, permission, whosoever, divisible, recollection, rational premeditate, reflected, inflexibility, extraordinary, unnecessary, preparation, aeriform, aqueduct, iniquity, triennial, conscientiousness, ratio, appreciate, impassible, archipelago, resurrection, abecedarian, simultaneously, prejudice, pronunciation, propitious, catalogue, polysyllable, miscellaneous, omniscience, recommendation.

○第七課 SPELLING (綴字法)

SPELLING は言語を夫々適當の文字を以て寫し表わすの方術なり  
附言 此所要なる方術を練熟するに徒に書籍上の規則の講究に頼らんよりは寧ろ綴字書若

observation	實驗、注目	uncertainty	不定、不確然
study	學習、研究	perplexity	紛雜
is attended	伴ハル	analogy	同類一律ノ法



is considered	忌避セラル
disgraceful	面目ナク
prevent	防ク。
similar	同類ノ
ignorant	無識ナル
uniformly	同例ニテ

くは辞典の媒介に由て讀習の經驗に得るに若か  
 き、元來我國語の綴字法は一定ならせして太だ煩  
 雜を免れざれば上達の生徒等と雖ども區々に綴  
 れる語多くあり又同類の語は同律に據るの法に  
 従わざして濫に書寫せる者常に多し、然れども同  
 法に由て綴るを得且つ平常に用る所の語の綴字  
 法を知らせして過るが如きは實に愧づべきの至  
 なりとす、左に示せる規則は幾分か此紛難を防ぐ  
 を得以て生徒の爲め裨益する所あるべし

Rules for Spelling (綴字の規則)

第一則 結尾の *ff* 又の事

單一の vowel (母音字) の次位に *f*, *ff* 又は *o* の字が

embarrassment of service accented	紛亂、困難、 効益ノ者 音号ヲ附シタル	additional begins EXCEPTION	附加ノ 首トナス 例外
---	---------------------------	-----------------------------------	-------------------

ありて終尾を結びたる Monosyllables (一切音語) は其  
 終尾の consonant (子音字) を重ねて二字書くなり、即ち  
*staff, mill, pass* の如し

但し *f* の字にて *clef, if, of* の三字又 *o* の字にて *bul,*  
*sal, sol* の三字又 *o* の字にて *as, gas, has, was, yes, is, his,*  
*this, us, thus, pus* の十一字は例外とす

第二則 自餘の結尾字の事

*f*, *ff* 又は *o* を除き自餘の consonant (子音字) にて終尾を  
 結ぶ語は結尾の文字を重ねざる者とす

但し *abb, cbb, add, odd, egg, inn, err, burr, purr, gear, bull,*  
*buzz, fuzz* の十三語と固有名詞 (人名、地名、山川等  
 の名) 中の或語の如きハ例外とす



derivatives	derivativo words	=同シ	permanent	永久不変ノ
primitives	primitive words	=同シ		
Compounds	compound words	=同シ		

accent	音号	retain	存留スル
preserve	保存スル	is omitted	除却セラル
mute	黙シタル・無音ノ	dropping	棄却シツト

第三則 結尾の字を重る事

Monosyllables (一切音語) 及び最後の syllable (連字) に音点 (音の輕重抑揚又ハ其記号) の附きたる語が單一の consonant (子音字) を以て終尾を結び而して其結尾の consonant の前位<sup>まへ</sup>に單一の vowel (母音字) 在るか若クハ qu の二字に續きたる vowel (母音字) 在るかの時之に他の syllable を附加するに當り其附加すべき syllable の首字が vowel なれば原語の結尾の consonant を重ねて書くなり、即ち rob, robber; permit, permitting; acquit, acquittal, acquitting の如し

但し結尾の k は其音を同一なるを以て之を重ねる事なし

第四則 結尾の字を重ねざる事

結尾の consonant (子音字) が單一の vowel (母音字) に繼ぎ居らざるか將た最後の syllable に accent の附きあらざる時は之に他の syllable を繼ぎ加るに當りて結尾の consonant は其儘にて之を重ねる事なし、即ち tell, telling; visit, visited; general, generalize の如し

但し最後の syllable に accent の附かざる時にして「ウエブスター」の説に従へば不穩當となすと雖も「履々結尾の」及び「を重る事あり、即ち travel, travelled; bias, biased」の如し以て例外とす

第四則 結尾の字を其儘に存する事

何字に限らざる都て同じ文字を二箇重ねて終尾を



結びたる語は之に語尾を附け加るに當り其語尾の首字々左の derivatives (變成語) に於るが如く原語の結尾の文字と同一にてあらざる限りは重ねたる儘にて二字とも存し置くなり、即ち *seeing, blissful, oddly, hilly, stiffness, illness, smallness, carelessness, agreement, agreeable* の如し

(上文に例示せる變成語を原体と後に附加したる者々に分解すれば、即ち *see ing, bliss-ful, odd-ly, hill-y, stiff-ness, ill-ness, care-less-ness, agree-ment, agree-able* となるなり)

但し *fled, sold, told, duelli, spell, spill, shall, will, best, past* の不規律語及び *pontiff* の語を原体として形りた

る derivatives (變成語) は此規條の外とす

第六則 結尾の E 字の事

primitive word (生語) の終尾を結びて發音なき。字は之に語尾を加るに當り其語尾の首字が vowel (母音字) なる時に、之を削り除くを通規とす、即ち *sale, val-able; force, forcible; rave, raving; eye, eying* の如し  
但し *ge* 又は *ce* にて終尾を結ぶ語は *chance* 又は *ours* の語尾を加る時に限り、を其儘に存し置くなり、是れ。又は *o* の音を柔和に存する爲めにて通規外とす、即ち *peace, peaceable; change, changeable; outrage, outrageous* の如し

第七則 結尾の E 字の事



Primitive word (生語) の終尾に在る e 字は語尾を加るに當り其語尾の首字が consonant (子音字) なれば其儘にて之を存するを通則とす、即ち *pale, paleness; lodge, lodgement* の如し

但結尾の e 字が vowel (母音字) の次位つにある時の時として之を除く事あり、即ち *true, truly; awe, awful* の如し、又時として之を存する事あり、即ち  *rue, rueful; shoe, shoeless* の如し

第八則 結尾の Y 字の事

Primitive word (生語) の結尾の y 字が consonant (子音字) に次ぎて在る時の更に語尾を加るに當り之を e 字と換るなり、即ち *merry, merrier, merriest, merrily, merriment;*

*pitly, pitied, pities, pitiless, pitiful, pitiable* の如し

但 *ing* の語尾の前にて y 字を存し以て e の重複を避るなり、即ち *pitly, pitying* の如し、又之と同様の理合にて e の二字を以て終尾を結ぶ語は第六則又従ひて e 字を除きたる上に e を y に換るなり、即ち *die, dying* の如し、俱に通則外とす

尤 vowel (母音字) が y の前に在る時の y 字は一切變る事なし、即ち *day, valley, valleys, money, moneys; monkey, monkeys* の如し

第九則 Compounds (合成語) の事

Compounds (合成語) は元之を組立てたる單純語の綴字法に従ふを通則とす、即ち *heretof, wherein, horseman,*



*recall, uphill, shellfish* の如し

但<sup>○</sup>不<sup>○</sup>易<sup>○</sup>合<sup>○</sup>成<sup>○</sup>語<sup>○</sup>(合成体にて己に一の單純語の如くとなり居て常用する者)に在つゝ *full* 及び *all* の語は二字一箇を省く、即ち *handful, careful, always, usual* の如し、又他の合成語に在つゝ二箇ともを存す、即ち *full-blown, all-wise, saw-all* の如し

*Exercises* (練習)

第一 左の *primitive word* (變成語)を一語づゝ如何なる *Derivatives* (生語)より作り成したるか將其綴字規則の孰れの條に従ふて變成したる者なるかを述べよ

*Compelled, skillful, holiday, happiness, courageous, rebellion,*

*traveler, believing, achievement, spoonful, galloping, beautiful, deluder, salable, changeable, narrator, juiciness, improvement, loveliness, beggar, spotted, preference, preferred, variable, conveyance, thralldom, agreeable, deriving, shoeing, business, icicle, impel, beginner, manumitting.*

第二 左の *primitives* (生語)の各を以て出来るだけの *derivatives* (變成語)を成形せ

*Excel, visit, commit, worship, bury, beauty, travel, judge, sincere, refer, vary, agree, full, delay, busy, lie, differ, occur, expel, benefit, buty, plan, despoil, narrate, beg, peril, receive, instruct, assemble, pity, define, mimic, compose, form, value, charge, animate, combat, acquit, abridge, critic, allege, merchant,*



tyrant, fancy, diy, omit, achieve, whole, compel, tall, debt,  
write, cancel, rob, spell.

第三 綴字規則に従ひて左の語に於る誤謬を訂せ

Scof, repel, til, unkill, rarity, chimnies, crosness, outstriped,  
passport, bisful, slothfull, merryness, instiling, refered, prefer-  
able, referible, duely, welspent, benefitted, improveing, defering,  
control, controlable, dulness, forgeting, bigotted, untrienig, move-  
able, pontificate, forceible, awful, annull, handfull, al-power-  
full, fruitfulness, miscal, wherin, perillous, fulfl, appall, uphil.

第四 左の語を解体し而して綴字規則の何條に對して其語が通則外の者なるかを述べよ

Excellence, judgment, bounteous, gaiety, said, egg, yes,  
argument, wholly, abridgment, almighty, gaseous, unpaid,  
crystalline, cancellate, development, mutinous, denying, kidnap-  
ping, daily, charitable, plenteous, babyhood, truly, this, add,  
unparalleled, biassed, dryly, awful, welfare, wherefore, chilblain,  
welcome, Christmas.

○第八課 CAPITALS (大字) の事

Capitals (大字) を適當に使用する事は極めて肝要なりとす、左の規則は心を留めて守らざるべからせ

第一則 書冊の題号の事

書冊の題号及び其部門條章等の標目は孰れも capitals を以て印刷せざるべからせ、尤書冊に簡畧に題号を



distinct	獨立ノ	paragraphed,	段落シタル
separately	各自(ニツバツ)ニ	clause	句・節
numbered	條ヲ立テタル	Deity	上帝

官名又ハ尊稱及び各種の固有名詞は皆な capitals を首字に置かざるべからず、即ち Chief Justice Hale, William, London, the Park, the Albion, the Spectator, the Thames の如し (Chief Justice は官名、Hale, William は俱に人名、London は都府の名、the Park は公園の義にて特に一の公園に命じたる時の名、the Albion は地名、the Spectator は新聞紙の名、the Thames は河の名にして右の官名を除くの外は皆な固有名詞なり)

第五則 假りて人に擬したる者の事  
假に人と見做したる者の名が確かに獨殊無類たるの idea (概念) を心の内に寫し出だせる時は capital を以て首字となさざるべからず、即ち左の如し

titles	題号・名目	principal	主眼ノ、重要ノ
heads	題目・標目	are mentioned	命題セラル、
divisions	門類・條章	merely	簡畧ニ

附する時には其題号中の主眼なる語の首字一箇丈に capitals を用ひ其他の字は都て小形を用ゆ、即ち "Pope's Essay on Man." の如し

第二則 首位の語の事

一文章の首位の語又は各自に條節を分ちたる各句の首位の語は capital を以て首字となさざるべからず

第三則 上帝の稱号の事

都て上帝の稱は capitals を以て首字となさざるべからず、即ち God, Jehovah, the Almighty, the Supreme Being の如し (God 以下皆な God の別号にして爺火華、全智全能者、至尊と譯す)

第四則 PROPER NAMES (固有名詞) の事



“Come, gentle Spring, ethereal mildness, come.”

(右引例の文を譯すれば「來れや來れ、天然の温和となせる暖和の春よ」と云ふの意となり、即ち假に春を人に擬して用ひたる者にて其春と云へる語が一般の春と云ふ事との全く違ひ一種特別の者となり居ること恰も人名に於るが如くなるが故に斯く固有名詞の例に倣ひて大字を首に置くなり)

第六則 他語より轉化したる語の事

人名又は地名の固有名詞より出でたる語は capitals を以て其首字となさざるべからず、即ち *Newsonian*, *Grecian*, *Roman* の如し (*Newsonian* は *Newton* と云へる人の名より

office	官職	personified	人トシテ假用シタル
honor	尊敬	conveys	誘也スル
description	種類	individual	獨一無類的

引例文  
百法・演說  
引句

example  
speech  
quotation

詩賦  
節・句  
認メラル、

poetry  
verau  
is regarded  
p. 17

り出でたる語にて即ち *Newton* 派又ハ *Newton* 派の人と云ふの意となり、*Grecian* は *Greece* と云へる國の名より出で、*Greece* の人又は *Greece* のと云ふ事になり、*Roman* は *Rome* と云へる國の名より出づ、*Rome* の人又は *Rome* のと云ふ事になるなり)

第七則 I 及び O の事

I 及び O の二語は何處にても capitals にて書かざるべからず、即ち “Out of the depths have I cried unto thee, O Lord.” の如し

(此例に示せる I は我は又ハ我がと譯すべき語にて人代名詞、O は驚嘆の意を表はす語にて間投詞にして I 及び O と云へる語は他の意味の語なし)



第八則 詩賦の事

詩賦に在てハ各行の首位の語は其首字を capital に書かざるべからず、即ち左の如し、但前行と合せて始めて一句を成せる者と認めなす所の者は此限にあらざ

“Those Christians best deserve the name

Who studiously make peace their aim.”

第九則 援例文の事

例に援ける全文又は文中特別なる論談言語又は直接の引句は孰れも其首語の首字を capital になさざるべからず、即ち “Remember this maxim: ‘Know thyself.’” — “Virgil says, ‘Labor conquers all things.’” の如し

direct (Lit. d.) particular importance	直接ノ 特別ナル 緊要	subject discourse	主 題語、記事
---	-------------------	----------------------	------------

第十則 主眼の語の事

文中特に緊要なる語及び説話の眼目となるべき語は全体を capitals にと書きて他の一般の語と區別する事あり、又 Proper names (固有名詞) は全体を capitals にと書く事多し

Exercise (練習)

左の文章を寫せ、而して Capitals の諸規則に照して或ハ capital を入れ或は之を除き去れ

Goldsmith's "deserted village" is a beautiful poem. The lord is a great god above all Gods. The city of London is situated on the river Thames. The hudson river was discovered by Henry hudson. the roman empire was divided into



書ル。論ズル

treats

差別セラル  
ノイアリ  
全体一面ニ

may be distinguished }  
throughout

two portions at the death of theodosius the great, the empire  
of the West being governed by Honorius and that of the east,  
by arcadius. Olibertus, the heban General, was remarkable for his  
earl epimanondas, the theban General, was remarkable for his  
love of truth, he never told a lie even in jest. o grave!  
where is thy victory? And god spake unto moyses, and said  
unto him, i am the lord. Pope says, "order is heaven's first  
law." The "lady of the lake" was written by sir walter  
scott, who was also the author of the waverley novels.  
get thee back, sorrow; get thee back  
why should i weep while i am young?  
i have not piped—i have not danced—

my morning Songs i have not sung.

諸是にて先づ英吉利文典中 letters (文字) syllables (切音又  
連字) separate words (單語) 即ち文章上に付て云はせし  
て一箇の語の資格を以て論ざる者) spelling (綴字法) に  
係る所の部を終結したり、文典の此部を名づけて  
ORTHOGRAPHY (正字法) とは云ふなり。

問 Orthography とは何ぞや (前に謝り答ふべし) Questions for Review (復習に付ての問) の部  
Language とは何なる者ぞ ○ 此國にては何なる Language とは何なる者ぞ (以上  
gnage とは云ふや) ○ English grammar とは何なる者ぞ (以上  
第一課) 第二課

Idea とは何なる者ぞ ○ thought とは何なる者ぞ ○



如何なる ideas が最も判然なるや ○ 例を擧げて之を示せ(以上第二課)

Word とは何ぞ ○ syllable とは何ぞ ○ letter とは何ぞ ○ 如何なる異なる形体を letters は有てるや ○ language の Alphabet とは如何なる者を謂ふや ○ 一 syllable の語をば何と呼ぶや ○ 二 syllables の語は何と呼ぶや ○ 三 syllables の語は何と呼ぶや ○ 四以上の syllables の語は何と呼ぶや(以上第三課及び第四課)

如何様に letters は分類せらるるや ○ vowel とは何ぞ ○ consonant とは何ぞ ○ 如何様の letters を vowels が有つか ○ w, x, y は vowels 乎あるか 將だ consonants といあるか ○ 例を示せ(第五課中の前部)

Diphthong とは何ぞ ○ triphthong とは何ぞ ○ proper と improper diphthong との間の差は如何であるや ○ proper と improper triphthong との間の差は如何 ○ 一々例を擧げよ(以上第五課の後部)

Simple word とは如何なる者乎 ○ compound word とは何ぞ ○ 各自の例を示せ ○ primitive word とは何ぞ ○ derivative word とは何ぞ ○ 各自の例を擧げよ(以上第六課の前部) Words を夫々正當なる syllables に分離する規則は如何 ○ spelling とは何ぞ ○ 何等の語に首字を capital にせねばならぬか ○ 何等の文字が何時も capitals を以て其首字となさねばならぬか ○ 詩賦に如何様に capitals を用るや ○ 何等の語が全体を capitals にて書くぞ ○



小心  
嚴密

care  
accuracy

捧グルフ  
逐次ニ  
知了

holding up  
successively  
knowledge

orthography は如何様の事を論じてあるか(以上第六課の後部より七課を経て八課の終尾に至る)

第二部

● ETYMOLOGY (言語法)

○ 第一套 PARTS OF SPEECH (言語の品類)

(此一套即ち左の第一課より第二十六課迄は専ら十品詞の區別を説くものにして即ち第二套に入るの豫科と心得て可なり)

○ 第一課 NAME OF THINGS (事物の名号)の事

教師は此處にて先づ Pen (筆) book (書籍) pencil (鉛筆) 等の如き者を執り之を生徒の眼に觸る様に捧げ、而る後ち次を逐て進むこと左の如し

(右の文は教師の爲す所を擬して示せる者と知るべし以下此類多し)

問 此物の名は何と云ふや

答 Pen (筆) なり Book (書籍) なり Pencil (鉛筆) なり

問 此物の名は如何

答 slate (石盤) なり

右等の語を教師自ら又は教師の指名にて生徒中の一人が黒板に寫したる上にて教師は更に左の問を發す







教師は先づ book (書籍) の如き者を生徒の目前に捧げ、夫より左の如く問を發す

問 此物の名は何と云ふや

汝等は此物に付て何事を話し出で得るや

答 The book is new. (其書籍は新しくある) The book has covers.

(其書籍は表紙を有つ) The book has leaves. (其書籍は紙頁を有つ) We can read the book. (吾等は其書籍を讀み得る)

右と同様にて生徒をして此他に第一課中にて其名を記したる所の者に付て何事をか話さしめ又は書かしむべし、都て此等の説話を書くには Capitals (首字)、spelling (綴字法)、punctuation (句續法) が夫々正

distinction	區別
expressions	語法・百辭
term	名稱

く法則に合ふ様に意を用ひざるべからむ  
教師は此處にて更に左の如き單簡なる文章を黑板に書くなり

Birds fly (鳥が飛ぶ)

余が今黑板に書きたる所の者を讀め

問 ソコで汝等が其様に Birds fly. (鳥が飛ぶ) と云ふ

時は夫の一体何物の事に付て話すのであるか

答 Birds (鳥等) の事なり

問 Birds に付て何事を云ふのであるか

答 They fly (彼等が飛ぶ) と云ふ事を云ふのである(此處にて彼等と指したるは birds の語が複數なるが故に其鳥等と受けたる者なり)



教師は此處にて更に *Bees make honey* (蜂が蜜を造る) の如き他の文章を黒板に書くなり

問 是は(黒板に書きたる所を指して云ふ)何物の事に付て話すのであるか

問 *Bees* (蜂)に付て何事を云ふのであるか

(右第二の問は已に第一の問に對して「*Bees*」に付て云のである」どの答をなしたる者と認め發したる者と知るべし)

是より又教師は *William plays* (ウィリアムが遊戯する)、*John studies* (ジョンが勉學する)、*Mary sews* (マリーが縫物する)、*Bears growl* (熊が吼る)、*Bees sting* (蜂が刺す)、*Boys run* (男兒が走る)の如き他の文章を書くなり

右數話の各自にて何物の事が説かるゝかを告げよ  
然すれば余は一々其を黒板に書くべし  
是より教師は黒板上に縦線を引き此線の左の方に(下の例にて)上の方に當る諸種の名を書き記すなり  
サテ是より此各自の名に付て何事が説かるゝかを告よ、然すれば余は黒板に於る他の一方(右手)に夫を書くべし

<i>William</i>	<i>plays.</i>
<i>John</i>	<i>studies.</i>
<i>Mary</i>	<i>sews.</i>
<i>Bears</i>	<i>growl.</i>
<i>Bees</i>	<i>sting.</i>
<i>Boys</i>	<i>run.</i>



右の練習は茲に致へんと企てたる稱呼の區別(被  
 說者と說事詞の區別)が明瞭に生徒の心に染み込  
 む迄充分に永く行はざるべからき、又生徒に向て  
 自ら右の如き説話を述べ而して之を上の例に倣  
 ひて分別する事をも望まざるべからき、又 *sentences*  
 (文章)と云へる稱は未だ此課迄は用ひざる者と心  
 得べし  
 都て何者に限らき言語が説き起さるゝ所の者を名  
 づけて SUBJECT(文主)と云ふなり(我又は汝と云へる意  
 味の語も「我」或「我々」「汝」或「汝が」など云ひて  
 文章の主となる事われども此處に説く所の *subject*  
 は専ら二人相對して談話せる中に何某は爾や何や

は斯々と云へるが如く兩人を除きて他の人か或は  
 物かにして談話の由て起る所の主本となる者を謂  
 ふなり、因て別に被說者とも譯するなり)  
 都て何者に限らず SUBJECT(文主)の事に付て、事柄を説  
 き出す所の者を名づけて PREDICATE(文賓)と云ふなり

○第三課 SENTENCES(文章)の事

Subject(文主即ち被說者)と predicate(文賓即ち說事詞)と  
 を一所に合せたる者が完全なる思想を啓べ出し即  
 ち完全なる意味を成すの効用をなすなり  
 如何なる單純語にても一の *idea*(觀念)丈けは啓べ出  
 すの効用はなせども完全なる意味を成すに一般



に少くも二語を要する者なり、其譯は意味を全ふするに、是非一の subject (被説者) と一の predicate (説事詞) とがなければならぬ故なり、依て教師は左の通り説き明すなり

*The book.* (其書籍) と黒板上に書け

問 此等の語は完全なる意味を成す者なるや

問 何故に(完全なる意味を)成さざるか

(此第二の問は生徒が己に第一の問に對して「完全なる意味を成さず」と答へたる者と見做して發したる者なり)

答 其中に一の predicate (説事詞) もなき故なり

問 此 runs (走る) と云へる語は意味完全なるや

at least  
illustrates  
assemblage

少クモ  
説明スル  
集合

問 何故に完全ならざるか

答 subject (文主) があらざればなり

*On the table* (其卓の上に) と黒板に書け

問 此數語は完全なる意味を成すや

答 否らず、如何にとなれば其中に一の subject (文主) もなければ又 predicate (説事詞) もなきを以てなり

何時でも語が相合して完全なる意味を成す時に、其相合したる語が所謂 SENTENCE (文章) を作り做すなり

問 然らば sentence (文章) とは如何なる者ぞ

答 sentence (文章) とは語の集合して完全なる意味を成す所の者を云ふなり



左の文章の各自の中にて subject (被説者) と predicate (説事詞) とを見出せ

Boys run (男兒等が走る) Do boys run (男兒等が走りなすか) Boys, run (男兒等よ、走れ)

問 吾人は(上の文章の)跳れに於ても subject (被説者) 及び predicate (説事詞) が皆な同一なるを見出せり、

然る時は右等の文章に何程の差があるや  
答 第一の文章は事を説き、第二の文章は疑を問ひ、

第三の文章は命令を下すなり  
教師少しく機巧を旋らす時の速に生徒より右等の

答を受け得べきなり、又教師は生徒が自ら發明するを得べき所に對して、務めて其發明す

るに任せて一言も口を出さぬ様になさるべからせ

右に由て汝等は同一の subject (被説語) と predicate (説事詞) を用ひ其中に do 又 does の如き別段に意味を變ぜる事なき單小なる語を折々挿みて種々類の異なる sentences (文章) を作り得る事を知るべし  
sentence (文章) が事を説く時に之を declarative (叙事体) と呼び疑を問ふ時に interrogative (疑問体) と呼び命令を下す時に imperative (命令体) と呼ぶなり  
sentence (文章) 中感叫の語ある時に之を exclamatory sentence (感叫体の文章) と呼ぶなり、即ち "O! the horse is running away!" (オー馬がアノマア走り去ることヲ!) の類是



なり

Exercises. (練習)

左の *declarative sentences* (敘事体の文章) を *interrogative* (疑問体) に換へよ

The sun shines. (太陽が照る) The stars twinkle (星が輝く) Boy is idle. (男兒が遊惰にあり) The ship has sailed. (船が帆掛けて走した) William is studious (ウィリアムが勉強にある) Mary sews. (マリーが縫物する) The birds sing. (其鳥が囀る) The flower is blooming. (其花が咲きつゝある) The dew is falling. (露が落ちつゝある) Birds sing. (鳥が囀る)

(初學の徒の参考の爲め茲に右の文章を疑問体<sup>〇</sup>に變る二三の例を示すべし) Does the sun shine. Is

boy idle. Has the ship sailed. Do the birds sing. Is the dew falling.

の如し中にて注意すべき動詞を一語用ひある時 Do 又 Do's の語を加へねば疑問体をなせき Do も Does も意味は同一の語なれども Do は其被説者なる名詞が復數の時<sup>〇</sup>に用ひ、Does は其名説が單數の時<sup>〇</sup>に用るにあるなり)

左の文章より *declarative* (敘事体) 又 *interrogative* (疑問体) の文章を作れ

How beautiful is night! (ナント晴亮に夜が有る事かな)  
 What a noble action that was! (ナント貴き舉動で其がある事かな) William, study your lesson. (ウィリアムよ、汝の課業を勉強せよ) Sarah, do not loiter. (サラ、よ惰放なす



な) Mary, how you talk! (マリーよ、ナント、汝は話すること  
 かな) 'Alas! my bird is dead! (嗟呼しもうた我の鳥が  
 死を居る) 'O! how sad I feel! (オ、マア何程悲しく我  
 は覺る事かな) 'John, leave the room. (ジョンよ、房を去れ) 'How  
 fast the horse runs! (ナント駿く馬が走る事かな) 'Hurrah! we have  
 gained the day! (ソリヤこそ我等は此日を  
 勝ちたぞ) (即ち) 今日 of 勝を占めたぞと云ふ事なり  
 (右の數文は改め方様々のれを先づ一通り下  
 の如くなるべし) 'How is beautiful night? That was a noble  
 action. Does William study lesson? Sarah does not loiter. Mary,  
 how do you talk? My bird is dead. I feel sad. Does John leave  
 the room? The horse runs fast. We have gained the day.)

elicited 誘ひ出サレタル

thought } 思考用題  
 question }  
 suit } 適合スル

○第四課 NOUN(名詞)と PRONOUN(代名詞)の事  
 都て人か場所か物かの名々文章中に用ひある時は  
 之を NOUN(名詞)と呼ぶなり  
 問 文章の subject(被説者)は必き noun(名詞)でなければ  
 ねばならぬか  
 右は思案を要する問題なり、故に生徒をして之を  
 考る餘間を得せしめ、而る後其考へ出したる答に  
 應じて練習の法を變さべきなり  
 答 文章の subject(被説者)は noun(名詞)若くは pronoun(代名詞)  
 の代に用ひたる或る他の語に限れり  
 各自の例を擧げよ



例 John studies. (ジョンが勉強する) He studies. (彼が

勉強する)

問 右の内第一の文章に如何なる noun (名詞) が用  
ひあるや

問 第二の文章に何 noun (名詞) の代に如何なる語を  
用ひあるや

是より各自に William と云へる noun (名詞) を subject (被説  
者) となし以て五種の文章を書け

(右の訓示は前の二問に對して夫々答を終りたる  
者を見て發したるものと知るべし)

- 一 William studies. (ウィリアムは勉強する)
- 二 William studies his lessons. (ウィリアムは彼の課業を

勉強する)

三 William is making improvement. (ウィリアムは上達なし  
つゝある)

四 William should be rewarded. (ウィリアムは賞せらるべ  
し)

五 William is praised by his teacher. (ウィリアムは彼れの  
教師より讃めらる)

是より又た第一の文章丈けに William の noun (名詞) を  
用ひて前と同様の文章を書け

問 汝等は斯る場合に何 noun (名詞) の代に如何なる  
語を用ひたるや

(右の問に「用ひたるや」と過去の辭を以て云ひたる



は前に John studies. He studies. と云へる例ありて John の代に He を用ひたるを云ひたるものなり

問 上の文章中第二及び第五にの noun (名詞) の代に如何なる他の語が用ひあるや (His なり)

nouns (名詞) の代に用ひたる語を入れて別に五種の文章を書け

noun (名詞) の代に用ひたる語を名づけて PRONOUN (代名詞) と云ふなり「PRONOUN の Pro は for 又り instead of (共に代) の意の意味を有つなり」

例 Mary gave Mary's book to Mary's brother Charles. (マリーはマリーの書籍をチャールレスなるマリーの兄弟に與へし)

問 右の文章中何か pronouns (代名詞) があるか(なし)

問 汝等の nouns (名詞) の孰れかの代に pronouns (代名詞) を用ひ得るや

Mary と云へる noun (名詞) の重複を避る爲め用ひらるゝ丈け多くの pronouns (代名詞) を用ひて上の文章を書け

例 Mary gave her book to her brother Charles. (マリーは彼女の書籍をチャールレスと云へる彼女の兄弟に與へし)

問 如何なる用ひ方の者で本来 pronoun (代名詞) はあるか

答 PRONOUN (代名詞) は類々同一の noun (名詞) を繰返



へし用ゐるの必要を省く者なり  
左の nouns (名詞) 中の一を取りて各文の subject (被説者) に用ひ且成る丈け Pronouns (代名詞) を多く用ひて五種の文章を書け

Samuel. Julia. Trees. The ship. The moon. The stars.

(右の名詞と許多の代名詞とを用ひて文章を作る事、彼國に在ての日用の言語にて兒童も之を作るを得べしと雖も我國に在ての初學の徒に爲し難き業なれば進んで第二套に至て再び代名詞及次代名詞を説く所の課を終るを俟て此作文の練習に従事するを良とす)

is done	爲シ出ケラルハ	exists	現存スル
is acted upon	働キ出ケラルハ	signifies	指明スル

○第五課 VERB (動詞) の事

例 Birds fly. (鳥が飛ぶ) Charles is laugh (チャールズが教へらる) He is (彼がある)

問 右の文章の各自に何 predicate (説事詞) は何であるか

問 fly 飛ぶと云へる predicate (説事詞) が何事を表はすぞ

答 其は其 birds (鳥等) が爲す所の事を表はすなり is laugh (教へらる) と云へる predicate (説事詞) は

問 チャールズが自ら爲す所の事を表はすか、將た彼に向て爲し及ばざる所の事を表はすか、あると云へる predicate (説事詞) が右の内孰れの



方を表はすや

問 上の predicates (説事詞) 中の孰れが動作を表はす

や

問 孰れが動作なくして現在する事を表はすや

問 孰れが subject (被説者) の自ら動作はたく事を表はす

や

問 孰れが subject (被説者) の他者より動作を受る事

を表すや

(以上數問に對して答を示さざるものは生徒容易に答をなし得べきを以て畧したるものなり)

文章中に在て subject (被説者) が自ら動作く事或の他者の動作を受る事或の單に在る事即ち現存する事

を表はす所の語を名づけて VERB (動詞) と云ふなり

問 然らば吾人は Verb (動詞) が如何の者にてあると

云ふを得べきか

答 Verb (動詞) とは在る事又ハ動作く事又ハ動作さ

及ばさる事を表はす所の語なりと云ふべき

なり

左の文章の各自にて孰れが Verb (動詞) なるや

Subjects

The earth

John

The horse

The boy

Cain

Predicates.

is a round body.

studies his lessons.

runs very swiftly.

was punished by his teacher.

slew Abel.



Abel

was slain by Cain.

(被説者)

其地球が

ヂロムが

其馬が

其男兒が

ケーンが

エーベルが

(説事詞)

圓さ体である

彼の課業を勉強する

太だ駿く走る

彼の教師より罰せられし

エーベルを殺せし

ケーンより殺されし

問

Verb (動詞)は subject (被説者)の部類であるか將た

Predicate (説事詞)の部類である

問

Predicate (説事詞)中の他の語は如何の使用の者で

あるか

答

他の語は Predicate (説事詞)を完全ならしむるの効

用をなす者である例へば The boy studies (其男兒が勉強する)と云へば己に subject (被説者)あり又 predicate (説事詞)あるを以て文章は乃ち文章に相違なければども其男兒が何を勉強すると云ふ事を示さざるが故に predicate (説事詞)完全ならざるなり

Exercises (練習)

- 一 各自に現在する事を表はす所の verb (動詞)を入れて三種の文章を書け
- 二 各自に動作を表はす所の verb (動詞)を入れて五種の文章を書け
- 三 各自に subject (被説者)が他者より動作を受る者と



して説かるゝ所の五箇の文章を書け  
 (右の内第一に示命せる文章の体は上に示せる例  
 の第一項の如き者を云ひ、第二に示命せる文章の  
 体は上の例中第二第三第五の如き者を云ひ、第三  
 に示命せる文章の体は上の例中第四第六の如き  
 者を云ふなり)

中間に線を引きて上に示せる如く各箇の文章を  
*subject* (被説者) と *predicate* (説事詞) とに分けよ(是は右三  
 類の敷説話を作る時の心得と知るべし)

○第六課 ARTICLE (冠詞) と ADJECTIVE (形容詞) の事  
*The bird sings.* (其鳥が囀る) *A bird can fly.* (一の鳥が飛

particular signification quality	特別ノ 意義 性質・品格
--	--------------------

び能ふ)

問 右の文章の各自にて如何なる語が *subject* (被説者)  
 にてあるか (*The bird* なり)

問 吾人が *The bird* と云ふ時の何とも定めき一の鳥  
 と云ふの意なるか、將た何か是と定めたる一種  
 特別の鳥の事なるか

答 吾人の是と定る所ある特別の鳥の意を以て云  
 ふのである

問 吾人が *a bird* と云ふ時の如何なる意となるや  
 答 吾人の何とも定めき唯た一の鳥と云ふの意を

以てし即ち特別の鳥にあらざるを云ふなり  
 問 然らば、及び *the* と云へる語の使用の如何であ



るか

問 此二語の其下に置ける nouns (名詞) の意味を變ずる者であるか

答 此二語の格別に意味を變るにあらざれば、唯だ之を制限するに止るなり、如何となれば *the bird, the flower* の如き言ひ *a bird, a flower* の如くに、廣き意味を有たざればなり

(辭を換へて上文の意を解釋すれば「唯だ *bird* と云ふ時、一般の鳥の事となりて少しも定め限る所なし、然れども *a bird* と云ふ時、何の鳥と指さねど鳥の中の」と云ふ事となり、又 *the bird* と云ふ時の其鳥とか彼鳥とか云ふ事となりて *a bird* と云ふ

より一層意味に限りあるなり、故よ *a* 及び *the* の二語の名詞の意味の別に變せねども其意味を制限する者なり」と云ふにあり)

問 *a apple, a eye, a oak* と云ふ事の正當なるや、(正當ならせと答ふべし)

問 右等の言の代に吾人の如何なる者を用ひねばならぬか

答 *An apple. An eye. An oak.* の言を用ゆべきなり

斯く吾人の語に従へる語が vowel (母音字) 又ハ vowel の音を以て語首をなす時の *a* を *an* に換るなり、即ち *An heir, an hour* の如し、(此處にて *h* の字は發音なし) *a, an, the,* 又 *an* 此等三箇の單小なる語を名づけて



ARTICLES (冠詞) と云ふなり

問 如何に吾人の article (冠詞) の義を釋き定むべきか

答 article (冠詞) とは the 又 a an 又 a & a と云へる語にし

て吾人が nouns (名詞) の意味を制限する爲めに

nouns の前に置く所の者なり

問 The good boy learns (其善き男兒が學ぶ) と云へる文

章の中に article (冠詞) の外に boy と云へる noun

(名詞) に如何なる語が加へあるや

問 good と云へる語に何の爲めに加へあるや

答 男兒の如何なる類で其男子があるかを表はす

爲めなり、言を換へて之を云へば其男兒の性質

品格を表はす爲めなり

此目的を以て nouns (名詞) 又 pronouns (代名詞) に加へたる語を名づけて ADJECTIVES (形容詞) と云ふなり

問 adjective (形容詞) とは何ぞや

答 adjective (形容詞) とは noun (名詞) 又 pronoun (代名詞)

に加へたる語にして通例性質品格を表はす者

なり

Exercises (練習)

一 各自に一又多くの articles (冠詞) を入れて三種の文章を書け

二 各自に一の noun (名詞) と一の adjective (形容詞) を入れて三種の文章を書け

三 各自に一の article (冠詞) と一の noun (名詞) と一の



*adjective* (形容詞) とを入れて三種の文章を書け。

四 左の文章の各自にて *subject* (被説者) と *predicate* (説事詞) とを見出せ、而して *verb* (動詞) と *noun* (名詞) と *article* (冠詞) とを指示せ。

Henry has a nice new book. (ヘンリーの一の美麗なる新しき書籍を有てり)

The dog has caught the sly fox. (其狗の其狡猾なる狐を捕へた)

The lightning struck the old barn. (其電光、其古き納屋を撃ちし)

The sharp frost killed the young buds. (其嚴しき霜が其若き芽を凋らせし)

The full moon sheds a pale light. (其満月が一の淡き光を放てり)

The bright sun scorched the green grass. (其赫々たる日光が其青き草を焦き凋らせし)

A diligent scholar makes rapid improvement. (勉強なる學生の速なる進歩を成す)

A careless, idle boy receives many sharp reproofs. (不注意に怠惰なる男兒が多くの嚴しき譴責を受く)

○第七課 ADJUNCTS (補助詞) の事

A good boy always obeys his parents. (善き男兒の常に彼の両親に聽従する)



問 此文章の subject (被説者) の何であるか (A good boy  
なり) predicate (説事詞) の何か (always obeys his parents な  
り)

問 如何なる noun (名詞) が subject (被説者) の一部を成  
すか (boy なり) 如何なる article (冠詞) が其一部を成  
すか (A なり) 如何なる adjective (形容詞) が其一部を  
成すか (good なり)

問 如何なる verb (動詞) が predicate (説事詞) の一部を成  
すや (obeys なり) 如何なる他の語が predicate (説事詞)  
に属するや (always, his, parent の三語なり) 如何なる語  
が boy と云へる noun (名詞) に附け加へ  
あるや (A と good なり)

成立の  
直接ニ  
間接ニ  
consist  
directly  
indirectly  
Gr. 26

問 如何なる語が obeys と云へる verb (動詞) に附け加へ  
あるや (always なり)  
文章中にて他の語に附け加へある所の語を名づけ  
て ADJUNCTS (補助詞) と呼ぶなり  
問 文章の孰れも必き何から出来ねばならぬか  
答 subject (被説者) と predicate (説事詞) と adjuncts (補助詞)  
なり

subject (被説者) と predicate (説事詞) の文章中の主要なる  
部分なり  
subject (被説者) 中の主要なる語の noun (名詞) 又の pronoun  
(代名詞) なり、其他の之に属する adjuncts (補助詞) なり  
predicate (説事詞) 中の主要なる語の verb (動詞) なり、其他



の皆な夫々直接か間接かにて之に属する所の adjuncts (補助詞)なり

Exercise (練習)

左の文章の各自に於る subject (被説者)と predicate (説事詞)とを指し示せ、而して其中にて何々が adjuncts (補助詞)であるかを告げよ

(左の文章中右傍に | を附したるの被説者、左傍に | を附したるの其補助詞、又右傍に || を附したるの説事詞、左傍に || を附したるの其補助詞と知るべし)

The sun shines brightly. (太陽が赫灼と照る) Good scholars study diligently. (善き生徒等は専心に勤學する) The

beautiful flowers soon fade. (美麗なる花が速かに萎む) How soon the beautiful flowers fade! (ナント速かに美麗なる花が萎むことかな) He acted very foolishly. (彼は甚だ愚鈍に行爲ひし) Then they went away. (然る時彼等が去りし) When did they go away? (何時彼等が去りなせしむ) The old man walks along very slowly. (其年老たる男は太だ遅く歩み行く) His new book is now lost. (彼男の新しき書籍が今失せてある) The frightened horse ran away very swiftly. (驚かされたる馬が太だ駭く走り去りし)

○第八課 PARTICIPLE (分詞)の事  
William going home lost his books. (帰宅する所のウィリアム



が彼の書籍を失ひし  
(右の例文を意譯すれば「ウィリアムが歸宅する途中にて自分の書籍を失ふた」と云ふ事なり)

問 此文章の subject (被説者) は何であるか (William なり)

問 何が其 subject (被説者) に附け添へあるや

答 Going home. なり

問 右の二語の内孰れが一方の語の adjunct (補助詞) であるか

答 Home が going の adjunct (補助詞) なり

問 Home と云へる語が何を表示しなすや

答 William が赴きつゝある場所を表示するなり

共享スル。分収スル  
股分ヲ取ル  
業ヲ

participate  
partake of  
properties

問 going と云へる語が何を啓べ表はしなすや

答 其語は動作を啓べ表はすなり

問 然らば何に類して其語があるか

答 verb (動詞) に類してあるなり

問 如何なる noun (名詞) に其語が附け加へあるや

答 William と云へる noun に加へあるなり

問 然らば又其語が verb (動詞) の外他に何に類してあるや

答 adjective (形容詞) に類してあるなり

右の理由を以て其語は verb (動詞) と adjective (形容詞) との性質を分収する者なりと云へり故に其語を名づけて PARTICIPLE (分詞) と呼ぶなり



問 Participles (分詞) は何時でも adjectives (形容詞) に類してあるか

答 然らば Participles (分詞) の中に Verb (動詞) と Noun (名詞) との性質を分収する者あり、即ち reading の語を William is fond of reading stories. (ウィリアムは昔話を讀む事を好つてゐる) と云へる文章に用ゐる時の如し

問 Participle (分詞) と何であるか

答 Participle (分詞) と Verb (動詞) より分れ出でたる語にして Verb (動詞) と Adjective (形容詞) が若くは Noun (名詞) などの二詞の性質を分収する者なり而して通例 Verb (動詞) に ing 又の ed 又の en を附け加へ

て作り成すなり

○第九課 ADVERB (副詞) の事

The horse runs swiftly. (馬が疾く駆る)

問 右の文章の predicate (説事詞) に如何なる Verb (動詞) が用ひあるや

問 其 Verb (動詞) が如何なる adjunct (補助詞) を有つか

問 swiftly (速に) と云へる語が何を表示しなすや

答 其語は如何の有様で馬が駆るか云ふ事を表示するなり

derived  
swiftness

岐レ來リタル  
駿速 (ハヤサ)



附け加へあるや (very なり)

問 何を此語が表示しなすや

答 此語は如何程疾く馬が駆るか即ち其早さの度を  
を表示する者なり

問 左の文章にて如何なる語が度を表示するや

*John is an exceedingly bright scholar.* (ジョンは非常に  
伶俐なる生徒である)

問 其度を表示する語が如何なる語に附け加へ  
あるや (bright に)

問 *He went there to-day.* (彼は今日其處に行きし)と云へ  
る文章にて *went* と云へる verb (動詞) が如何なる  
adjuncts (補助詞) を有つか (*there* と *to-day* となり)

問 *There* と云へる語が何を言ひ表はしなすや (彼男  
の行きたる場處を表はすなり)

問 *to-day* と云へる語は何を言ひ表はしなすや (彼男  
が其場所に行きたる日取を表はすなり)

verbs (動詞) に附け加へる此類の語を名づけて **ADVERBS**  
(副詞) と云ふなり

問 然らば *adverb* (副詞) と如何なる者ぞ  
答 *adverb* (副詞) と *verb* (動詞) *participle* (分詞) *adjective* (形  
容詞) 又他の *adverb* (副詞) に附け加る語にして

一般に時期、地位、程度、容態を表はす者なり

*Exercises.* (練習)

一、第七課の *exercise* に於る文章の各自に在る *adverb* (副



詞を指示せ、然して如何なる語に其 *adverb* が附け加へてあるか且何事を表はすかを言へ

二、各自に時期の *adverb* (副詞) を入れて三種の文章と又各自に地位の *adverb* (副詞) を入れて三種の文章と又各自に程度 of *adverb* (副詞) を入れて三種の文章と又各自に容態 of *adverb* (副詞) を入れて三種の文章とを書け

○第十課 CONJUNCTION (接續詞) の事

*John is a good scholar. (ジョンは良き生徒である) - William is a good scholar. (ウィリアムは良き生徒である) - Charles is a good scholar. (チャールスは良き生徒である)*

respect	関係、點	In construction	構：成セル
connect	繋結スル	dependence	聯絡、關係
connected	結合セラレタル	terms	語、詞、言

問 右にハ幾干の文章あるや

答 右の三文章は如何なる處が互に相同じくあるや

問 此等三文章を一に合せ唯一箇の *predicate* (說事詞) を有たしむる事ができるか

答 然り、即ち *John, William, and Charles are good scholars.* (ジョン、ウィリアム、及びチャールスは良き生徒である) と云ふなり

問 何を汝等の一に合せたか *subjects* (被說者) か將た *predicates* (說事詞) か (被說者) なり

問 其等を合する爲めに如何なる語を用るや (*and*)



なり

此法を以て數語を一に合する詞を名づけて CONJUNCTIONS (接續詞) と云ふなり

問 左の文章を一に合することができるか

*Mary is diligent. (マリーが勤勉である) Her sister is idle.*

(彼女の妹(或ハ姉)が怠惰である)

答 然り、左の通りに合せる事ができるなり

*Mary is diligent, but her sister is idle. (マリーは勤勉である、*

*然しながら彼女の妹は怠惰である)*

問 右二文章を結び合する爲め如何なる語が用ひ

あるや (but) なり

問 然らば conjunctions (接續詞) の何を結び合する者て

あるか

答 語<sup>○</sup>か文章<sup>○</sup>かを結び合する者であるなり

問 然らば又 conjunction (接續詞) は如何なる者と云ふを得べきか

答 conjunction (接續詞) は語又ハ組立てある文章<sup>○</sup>を一に結び合せる爲めに用る語にして其結び合せたる語又ハ文章の間の連糸<sup>○</sup>を表はす者なり

Exercises (練習)

一、左の文章の各自にて conjunction (接續詞) を指せ、而して何を結び合せ居るかを云へ(左の文章中接續詞には | の標号を附し置き以て初學の徒の獨修に便にす、但し其語を結び合せたると文章<sup>○</sup>を結び



合せたるとを判別するの容易なるべしと思はるれば別に説明を附せず)

The pupils read, write, and cipher. The children skip, jump, and play. Boys and girls go to school and learn their lessons. William is attentive, but his brother is heedless. He could not find his slate or his pencil. He is careless, for he has lost his book. John must be punished, because he is idle. If children are good, they should be rewarded.

二、 *subject* (被説者)の部より一の *conjunction* (接續詞)を入れて五種の文章を書け(右の例文中第三に在る Boys and girls の類なり)

三、 *predicate* (説事詞)の部に一の *conjunction* (接續詞)を入

れて五種の文章を書け

(是の例文中第一に在る read, write, and cipher の類なり)  
四、 一の *conjunction* (接續詞)を以て結び合せたる二文章より成れる五種の文章を書け(是の例文中第四より在る William is attentive, but his brother is heedless. の類なり)

○ 第十一課 PREPOSITION (前置詞)の事

The bird flew over the tree. (其鳥が其樹を越て飛びし)

The boy climbed up the tree. (其男兒が其樹の上に攀ぢ登りし)

The squirrel ran down the tree. (其鬆鼠が其樹の下に走りし)



問 右の三文章中に如何なる verbs (動詞) が用ひあるや

問 其 verbs (動詞) の各自が表はしたる動作が何に關聯してあるか

答 *The tree* (其樹) に關聯してあるなり

問 孰れにても關聯が同一であるか

答 然らず、第一にては關聯が其樹を離れて上の方となり、第二にては其樹の上の方となり、第三にては其樹の下の方となるなり

問 此關聯を云ひ表はす爲めに如何なる語を用ひあるぞ

答 *over, up, 及び down* なり

此様に關聯を云ひ表はす所の語を名づけて PREPOSITIONS (前置詞) と云ふなり

問 如何に吾人は *Prepositions* (前置詞) の義を解き定むべきや

答 *Preposition* (前置詞) は種々の事物又ハ種々の思想の間の關聯を啓へ表はす爲めに用る語にして *Noun* (名詞) 又ハ *Pronoun* (代名詞) の前へ置くを通則とすと釋き定むべきなり

*Exercises* (練習)

一、左の文章の各自に於る *Prepositions* (前置詞) を指示せ、而して其各自が如何なる關聯を表して居ると云ふ事を述べよ (左の文章中前置詞には—



を附す)

The paper lies upon the table.

The book is before him.

The horse ran from the stable.

He put the money into his pocket.

The boat sailed across the lake.

The roof of the house leaks.

Here is a pin, without a head.

The boy is free from blame.

二、汝等が思ひ出し得る丈の prepositions (前置詞) を云へ

三、汝等が思ひ出したる prepositions (前置詞) の内の孰

れかを入れて五種の文章を書け

○第十二課 INTERJECTION (感詞) 並に PARTS OF SPEECH (説話の原分即ち十品詞) の事

Oh! how beautiful is the sky! (オ、ナント晴麗に此空があることかな)

問 右は文章の如何なる種類であるか [第三課を見よ]

問 右の文章中感動の情を啓べ表はす爲めに如何なる語が用ひあるや (Ohなり)  
問 如何なる點が其語の後位に置きあるや (二なり)



(a) are divided  
(b) are modified

分別セラル、  
變化サセラル、

問 文章中の語が皆な同一の職務を成す者であるか  
答 然らず、皆な夫々異なる職務を成す者であるなり  
問 或者が如何なる職務を成すや

emotion  
define  
sudden

感情・感動  
定義スル  
不意ノ・突然ノ

perform  
offices

全クスル  
職務

右の法にて感動の情を表示する爲めに用ひたる語を名づけて INTERJECTIONS (感叫詞又間投詞) と云ふなり  
問 如何に吾人は interjection (感叫詞) の義を釋き定むべきや

答 interjection (感叫詞) は心情の強き感動又ハ突然なる感動を表示する爲めに單に發聲する所の語なりと

Exercises (練習)

一、左の文章中に於る interjections (感叫詞) を指示せ(左の文章中間投詞には「」の標を附す)

Alas! my bird is dead!

Hush! you will disturb his sleep.

O for a calm and thankful mind!

Pshaw! how ridiculous that is!

二、汝等が思ひ出し得る文けの他の interjections (感叫詞) を言へ  
三、一の interjection (間投詞) を入れて五種の文章を書け



答 或者の物の名であり、或者の動作を表はし、或者の性質、品格を表はし、或者の關係を表はし、或者の他語を結び合する爲めに用ひらるゝ等の類なり

此次第を以て語は PARTS OF SPEECH (説話の原分) と名けたる品類に分別せらるゝなり

問 parts of Speech (説話の原分) の各自の名は何々であるか

答 Article (冠詞) Noun (名詞) Adjective (形容詞) Pronoun (代名詞) Verb (動詞) Participle (分詞) Adverb (副詞) Conjunction (接續詞) Preposition (前置詞) Interjection (感叫詞) なり

文典中にて語の品類と其品類が又如何なる種類よ

再分せらるゝか且如何様に變化させらるゝかと云ふ事を説く所の部分を名づけて ETYMOLOGY (言語法) とは云ふなり

問 etymology (言語法) は何であるか (此問に對しての前文を轉倒して「言語法」といふ文典中言語の品類と其品類が又如何る種類に細分せらるゝか且又如何様に變化させらるゝかを説く所の部分を云ふなり) と答ふべきなり

○ 第十三課 REVIEW (複習) 兼 DEFINITIONS (定義)

SENTENCE (文章) との語の集合して完全の意味を成す者を云ふ、即ち Beauty fades. (美色が衰ふ) Reward sweetens



labor. (賃々勞を慰る)の如し

ETYMOLOGY (言語法)とて説話の諸種の原分と其分類

變化を説く者を云ふ

PARTS OF SPEECH (説話の原分即ち言語の品類)は英吉

利の國語に十あり、即ち Article (冠詞)、Noun (名詞)、

Adjective (形容詞)、Pronoun (代名詞)、Verb (動詞)、Participle

(分詞)、Adverb (副詞)、Conjunction (接續詞)、Preposition (前置詞)、

Interjection (感嘆詞)是なり

ARTICLE (冠詞)の the, an, 及び a の語にして吾人が意味

を制限する爲めに nouns (名詞)の前に置く所の者な

り、即ち the air (其空氣)、the stars (其星)、an island (一の島)、

a ship (一の船)の如し

變化  
呼ばレ

modifications  
 be mentioned

NOUN (名詞)は人か場所か物かの名にして即ち其に

由て其人たり其場所たり其物たるを識認するを得

る所の者なり、即ち George (人名)、York (地名)、man

(男)、apple (林檎)、truth (實事)の如し

ADJECTIVE (形容詞)は noun (名詞)、又ハ pronoun (代名詞)

に附け添る語にして通例品。格。性。質。を言ひ表わす者

あり、即ち A wise man (一の賢き男)、a new book (一の新き

書籍)、You two are diligent (汝も亦た勤勉にある)の如し

(此最後の例中 diligent と云へる形容詞の形容すべき

名詞なきは boy の語を畧したるものと知るべし此

例太だ多し故に斯る場合に於て其文章の被説者

たる名詞又ハ代名詞を形容する者と見做して可な



り

PRONOUN (代名詞) は noun (名詞) の代に用る語なり即ち  
 The boy loves his book. (其男兒が彼れの書籍を愛する、  
 he has long lessons, (彼れの長き課程を有つ) and he learns them  
 well. (而して彼れの其を能く學ぶ) の如し  
 VERB (動詞) の現存する事、動作く事、他者より動作さ及  
 ぼさるゝ事を表はす所の語なり、即ち I am (我の在  
 る) I rule (我の支配す) I am ruled (我の支配せらる) I love  
 (我の愛する) thou lovest (汝の愛する) he loves (彼の愛す  
 る) の如し

PARTICIPLE (分詞) は verb (動詞) より分れ出でたる語に  
 し、 verb (動詞) を adjective (形容詞) か若くは noun (名

詞) などの二者の性質を分収する所の者なり而して  
 通例 verb (動詞) に ing 又は ed を付け加へて作るな  
 り、例へば rule と云くる verb (動詞) より ruling, ruled, having,  
 ruled の如く單純の者二箇と混合の者一箇と都合三  
 箇の participles (分詞) が出来るが如し

ADVARB (副詞) の verb (動詞) か participle (分詞) か adjective (形  
 容詞) か或は他の adverb (副詞) かに附け加る語にして  
 通例時期、地位、程度、状態を表はす者なり、即ち They are  
 now here, studying very diligently. (彼等今太だ熱心に勉學し  
 つゝ今此處に居る) の如し  
 CONJUNCTION (接続詞) の語、或は組立てたる文章を結び  
 合せ而して其結び合せたる語、或は文章の連絡を示



す爲めに用ゐる語なり、即ち *Thou and he are happy, because you are good.*, (汝と彼れとの幸福よある、何となれば汝等の善心にある故なり)の如し

**PREPOSITION** (前置詞)の種々の事物又の種々の思想の間の關係を言ひ表はす爲に用ゐる語にして通例 *noun* (名詞)又の *pronoun* (代名詞)の前に置く者なり、即ち *The paper lies before me on the desk* (其紙が机の上に我の前に在る)の如し

**INTERJECTION** (感叫詞又問投詞)の心情の強き感動又の突然の感動を示す爲めに單に發聲する所の語なり、即ち *Oh! alas! ah! poh! pskaw!* の如し *Questions for Review* (複習に付くの問題)の

*sentence* (文章)とは如何なる者ぞ ○ *sentence* (文章)の主眼なる部分は何であるか ○ *subject* (被説者)とは如何なる者ぞ ○ *predicate* (説事詞)の如何なる者ぞ ○ *declarative sentence* (敘事体の文章)の如何なる者ぞ ○ *interrogative sentence* (疑問体の文章)の如何 ○ *exclamatory sentence* (感叫体の文章)は如何 ○ *imperative sentence* (命令体の文章)は如何 ○ *adjuncts* (補助詞)とは何ぞや ○ *parts of speech* (説話の原分)は如何なる者ぞや ○ *parts of speech* (説話の原分)の名は何々ぞ ○ 其名が幾千あるや ○ 其各自の定義を示せ ○ *etymology* (言語法)は何であるか

○ 第十四課 **PARSING** (詞性の説明)の練習



解明セヨ

parse

發聲セラルハ  
分解スルヲ  
説明スルヲ

is uttered  
resolving  
explaining  
(es. p.)

PARSING (説明)とは文典の定義及び諸規則に従ふて  
文章中の語を逐一説明する事を云ふなり

Exercises in Parsing (詞性説明の練習)

練習第一 左の文章中 verb (動詞)と noun (名詞)と article  
(冠詞)とを指示せ而して一づゝ左の例の通りに説  
明せよ

第一例

The man walks. (其男が散歩する)

一 Walks は verb (動詞)なり、何となれば其語が  
動作を示すが故に

二 Man は noun (名詞)なり、何となれば其語が  
人の名である故に

三 The は article (冠詞)なり、何となれば其語が

man と云くる noun (名詞)の意味を制限す  
る故に

The sun shines. William reads. The fire burns. The ship  
sailed. John studies grammar. The boy told an untruth.

The horse is a quadruped. A is an article. The flowers bloom.

Ducks swim. Does the sun shin? Birds build nests. Columbus

discovered America. Hawks kill chickens. Cain slew Abel.

The sun ripens the fruit.

(右の孰れも第一例に據り説明すべき例題の  
文章なり)

練習第二 verb (動詞) noun (名詞) article (冠詞) adjective (形  
容詞)及び pronoun (代名詞)を指示せ而して第一例及



び第二例の通りに説明せよ

第二例 An idle scholar disgraces his teacher. (怠惰なる生徒は其教師を辱むる)

徒は其教師を辱むる

四 Idle ( adjective (形容詞)なり、何となれば其語が scholar の性質を表す故に

語が scholar の性質を表す故に

五 His is pronoun (代名詞)なり、何となれば其語が scholar を示す故に

は scholar を示す故に

ある故に

A good boy obeys his parents. Sarah learns her lessons.

History is a useful study. A disobedient boy disgraces his

parents. The earth is a round body. Boys are heedless.

They disregard their teachers. Wisdom is the principal

thing. A noble mind scorns a mean action. Washington was

a true patriot. A good book is an interesting companion.

William found the money which his careless brother lost. A

friend should bear a friend's infirmities. A faithful servant

studies his master's interest. A cheerful temper is a great

blessing.

(右はいづれも第一例及び第二例に據て説明するべき文章なり)

練習第三 左の文章中の parts of speech (説話の原分)を

区分し而して之を第一、第二、第三の例に據て説明せよ

第三例 The good scholar attends diligently and carefully to his



lessons (其善き生徒の専心に且綿密に彼  
れの課程に注目する)

六 *Diligently* と *carefully* とは *adverbs* (副詞) なり、何  
となれば此二語の俱に *attend* と云へる *verb*  
(動詞) に附け加へありて状態を言ひ表し  
す故に

七 *And* は *conjunction* (接続詞) なり、何となれば  
其語が *diligently* と *carefully* とを結び合はす  
る故に

八 *To* は *preposition* (前置詞) なり、何となれば  
*attend* と云へる *verb* と *lessons* と云へる *noun*  
(名詞) との關係を表しす故に

John and Peter are good scholars. James is a dishonest and  
idle lad. The rose is a beautiful and fragrant flower. Pros-  
perity gains friends, and adversity tries them. William studies  
diligently, but Charles is idle. A peach, an apple, a pear, or an  
orange is very delicious. The eagle has a strong and piercing  
eye. Candor, sincerity, and truth are amiable qualities. The  
horse runs swiftly. Caesar was a very famous general. He  
conquered many nations, and invaded the island of Britain.  
Hark! the trumpet sounds. Alas! how unfortunate he is!  
The industrious and attentive scholar learns with great ease  
and rapidity. Virtuous youth gradually brings forward accom-  
plished and flourishing manhood. Sloth enfeebles equally the  
bodily and the mental powers. The shortest life is long, if it



leads to a better.

(右の都て第一、第二、第三の例に據て説明すべき文章なり)

練習第四 左の文章の各自に如何なる *part of speech*

(説話の原分)を要するかを告げ、而して其缺處を填め且一語づゝ説明せよ

The man walks —— John writes —— Quicksilver is bright —— shining. —— boy is amiable —— talented ; —— he does not study. —— is beautiful —— fragrant. Set the beak —— the —— The bird flew —— a tree. The ship sailed —— the harbor. The fear —— punishment —— crime. My father has gone —— Boston, —— will —— return. The

travelers sat —— a —— fire. The —— scholars have studied —— lessons, and —— know —— well. The hare is a —— timid animal. He runs away very —— when he —— the least noise.

(右の各文中の缺處に填むべき語を選び参考と供す〔(一) *slowly* (二) *well* (三) *and* (四) *The* (五) *and* (六) *but* (七) *rose* (八) *and* (九) *upon* (十) *table* (十一) *above* (十二) *away* (十三) *and* (十四) *oppress* (十五) *to* (十六) *who* (十七) *soon* (十八) *around* (十九) *slow* (二十) *good* (廿一) *their* (廿二) *they* (廿三) *them* (廿四) *very* (廿五) *fast* (廿六) *hears*〕の類なるべし)



○第十五課 ANALYSIS (文章の解剖)の事

ANALYSIS (解剖)とい文章を分解して原之を組立たる部分に復すを云ふ

文章には孰れも是非 SUBJECT (文主即ち被説者)と PREDICATE (文賓即ち説事詞)と云へる二箇の主眼の部分なるべからず

都て subject (被説者)と predicate (説事詞)と結合したる所を名づけて PROPOSITION (言話又文章)と云ふなり (proposition とい被説者あり説事詞ありて一の意思を啓へ出せる者を云ひ之を sentence に比ふる時の本來の字義に於て異なる所ありと雖ども書に寫したる上よては互に毫も異なる所なくウェズター氏の字典に據

separation	分解
contains	包有スル
combinations	結合

るも特に文典上の用例を掲げて Complete sentence と註せり故に茲に文章とも譯したるなり)

SIMPLE SENTENCE (單句文章)とは唯一の proposition (言話)と有る所の者たる即ち Fire burns (火が燃る) (The truth will prevail (其真理は行はる)の如し

PHRASE (短句)とは ideas (概念)の或る開關を表す所の語の三箇以上を結合したる者にして完全なる文章を成する者たる即ち Of a good disposition (佳良の品性)の者) By the means appointed (其示命せられたる手段を以て)の如し

文章の subject (被説者)の通例 adjuncts (補助詞)あり或は之なくして noun (名詞)又は pronoun (代名詞)を以て成立



○第十五課 ANALYSIS (文章の解剖)の事

ANALYSIS (解剖)とい文章を分解して原之を組立たる部分に復すを云ふ

文章には孰れも是非 SUBJECT (文主即ち被説者)と PREDICATE (文賓即ち説事詞)と云へる二箇の主眼の部分なるべからず

都て subject (被説者)と predicate (説事詞)と結合したる所を名づけて PROPOSITION (言話又文章)と云ふなり (Propositionとい被説者あり説事詞ありて一の意思を啓べ出せる者を云ひ之を sentence に比ぶる時の本來の字義に於て異なる所ありと雖ども書に寫したる上よては互に毫も異なる所なくウエブスター氏の字典に據

separation	分解
contains	包有スル
combinations	結合

(See p. 21)

るも特に文典上の用例を掲げて Complete sentence と註せり故に茲に文章とも譯したるなり) SIMPLE SENTENCE (單純文章)とは唯一の proposition (言話)を有つ所の者を云ふ即ち Fire burns (火が燃る) The truth will prevail (其真理は行はるべし)の如し PHRASE (短句)とは ideas (觀念)の或る開繫を表はす所の語の二箇以上結合したる者にして完全なる文章を成さざる者を云ふ即ち Of a good disposition (佳良の品質の者) By the means appointed (其示命せられたる手段を以て)の如し 文章の subject (被説者)の通例 adjuncts (補助詞)あり或の之なくして noun (名詞)又の pronoun (代名詞)を以て成立



つ者とす、又文章の predicate (説事詞) は或ハ adjuncts (補助詞) あり或ハ之なくして verb (動詞) より成立つ者とす adjective (形容詞) ʼparticiple (分詞) ʼnoun (名詞) 又ハ pronoun (代名詞) が文章の predicate (説事詞) の中に用ひられ其語が直ニ subject (被説者) に連繫してある時ハ之を **ATTRIBUTE** (表性詞) と呼ぶなり、即ち Goldis yellow. (金ハ黄色) ʼ Cain was a murderer. (ケーンハ謀殺者) ʼ The sun is shining. (太陽が輝き) ʼ It is he. (其ハ彼男) である) の如し (attribute は形容詞、分詞、名詞、代名詞の内が説事詞中に在りて文主たる者の品性を表示する場合の稱にして本文の例にも示せる通りに必ず *is* や *was* の如き *is* の動詞より出てたる語に従ふ者なり、即ち上の例

に「金ハ黄色である」と云へる如く形容詞にて物の性質を表はす者又は「ケーンハ謀殺者にてありし」其は彼の男である」と云へる場合に於るが如く名詞若くハ代名詞に在てハ主賓を顛倒して「謀殺者ハケーンにてありし」彼の男は其である」と云ひても敢て意味に變動なき者はなり)

simple sentence (單純文章) を解剖するに、第一に subject (被説者) 第二に predicate (説事詞) 第三に subject (被説者) の noun (名詞) と其 adjuncts (補助詞) 第四に predicate (説事詞) の verb (動詞) と其 adverbial adjuncts (副詞) の補助詞 第五に object (目的物) と其 adjuncts (補助詞) 第六に attribute (表性詞) と其 adjuncts (補助詞) を指示せ



第一例 Contentment brings happiness (満足ハ幸福を  
提げ来る)

右ハ單純なる declarative sentence (敘事体の文章)なり、其 subject (被説者)ハ contentment なり、其 predicate (説事詞)ハ brings happiness の二語として、其内 brings ハ verb (動詞)、happineess ハ其 object (目的物)なり、右と同様の法を以て左の文章を解剖せよ

Vice brings misery. Diligence is rewarded. Plants produce flowers. Hastle makes waste. Perseverance overcomes obstacles. The tree bears fruit. Vanity excites disgust. The merchant sells goods. The sailors suffered shipwreck.

Does William study grammar? Can vice bring happiness?

Children should obey their parents. Does Charles obey his parents? The bird has built a nest.

第二例 All the objects of nature well deserve our diligent study (宇宙の一切の物が能く吾人の熱心なる研究に適す)

右ハ單純なる declarative sentence (敘事体の文章)なり、其 subject (被説者)ハ all the objects of nature なり、predicate (説事詞)ハ well deserve our diligent study なり、subject noun (被説部の名詞)ハ objects なり、其 adjuncts (補助詞)ハ all & the なり、phrase (短句)ハ of nature なり、predicate verb (説事部の動詞)ハ deserve なり、其 adjuncts (補助詞)ハ well の adverb (副詞)なり、其 object



(目的物) の *study* なり、又其 *object* (目的物) の *adjuncts* (補助詞) は *our* と *diligent* となり  
 右と同様の法にて左の文章を解剖せよ

The good scholar attentively studies his lessons. Many severe afflictions overtook that unfortunate man. He suddenly lost all his property. Every person highly praises William's noble conduct. Caesar fought many great battles. William has carelessly torn John's beautiful new book. The Athenians carelessly observed Solon's wise laws. The queen has wisely proclaimed a general peace. John yesterday found Sarah's new book. This benevolent young lady kindly teaches many poor children. Both these bad boys deserve severe punishment.

The traveler related many amusing incidents. This merchant has just returned from Europe. In winter, the snow covers the ground. The love of truth should be carefully cultivated. Grammar teaches the right use of language.

## 第三例

Filial ingratitude is a shameful crime (孝の道に負く  
フィリアル・イングラチチュード 事ハ恥まかしの罪惡なり)

右ハ單純なる declarative sentence (敘事体の文章) にして其 Subject (被說者) 〽 *Filial ingratitude* Predicate (說事詞) 〽 *is a shameful crime* Subject noun (被說部の名詞) 〽 *ingratitude* 其 adjunct (補助詞) 〽 *Filial* predicate verb (說事部の動詞) 〽 *is* 其 adjunct (補助詞) 〽 attribute (表性詞) の *crime* 又 attribute (表性詞) の adjuncts (補助詞)



is a *shameful* man

右と同一の法にて左の文章を解剖せよ

The sky is blue. The fields are green. My book is new.

His book is very old. Honesty is the best policy. Napoleon

was a great general. Washington was a true patriot. New

York is a great commercial city. Thomas Jefferson was the

third president. Gold and silver are precious metals. Order

is Heaven's first law. The fear of the Lord is the beginning

of wisdom. The flowers of spring are very beautiful.

○第十六課 CONSTRUCTION (構文) と COMPOSITION

(編文)の事

CONSTRUCTION (構文) との語を連結して文章となすを云ふ

COMPOSITION (編文) とは意思を啓る爲め文章を連結するを云ふ

composition (編文) に在ては其文章の啓る所の意思に由て数多の文章が互に繋がり合ふものなり

問 前課の練習中に在る文章の composition (篇) を成しあるや(此 composition の語の編作する事ともなり

又編作したる者をも云ふと知るべし)

答 否不然らば何となれば前課中の文章の孰れも獨立して居り互に毫も關係なき意思を啓べ表はす者なればなり



The sky is blue. The fields are green. My book is new.  
 His book is very old. Honesty is the best policy. Napoleon  
 was a great general. Washington was a true patriot. New  
 York is a great commercial city. Thomas Jefferson was the  
 third president. Gold and silver are precious metals. Order  
 is Heaven's first law. The feet of the Lord is the beginning  
 of wisdom. The flowers of spring are very beautiful.

○第六十課 CONSTRUCTION (挿文) と COMPOSITION

(編文)の事

CONSTRUCTION (挿文) とは語を連結して文章となすを  
 云ふ

COMPOSITION (編文) とは意思を啓る爲め文章を連結  
 するを云ふ

composition (編文) に在る其文章の啓る所の意思に由  
 て數多の文章が互に繋がり合ふものなり

問 前課の練習中に在る文章の composition (篇) を成し  
 あるや(此 composition の語の編作する事ともなり

又編作したる者をも云ふと知るべし)

答 否な然らば何となれば前課中の文章の孰れも  
 獨立して居り互に毫も關係なき意思を啓べ表  
 はず者なればなり



Exercises (練習)

左の通りに挿文せよ

- 一の noun (名詞) と一の verb (動詞) と各自の adjuncts (補成詞) を有てる一の記事
- 一の subject noun (被設部の名詞) と一の predicate verb (説事部の動詞) と adjuncts (補成詞) なる object (目的物) とを有てる一の記事
- 一の subject pronoun (被設部の代名詞) と一の predicate verb (説事部の動詞) と adjuncts (補成詞) なる attribute noun (表性詞の名詞) とを有てる一の記事
- 一の adjective attributes (形容詞の表性詞) を有てる一の記事
- subject (被設者) と predicate (説事詞) との中に一の object

批評セヨ  
快ク

Critical  
pleasing

分類シテ  
作文セヨ  
野鄙ナル

disconnected  
construct  
along  
(acc. p.)

- (目的物) と他の adjuncts (補助詞) を有てる一の記事
- TREE (樹) の事を叙る三箇の文章を書け
- FISH (魚) の事を叙る四箇の文章を書け
- CLOCK (時辰器) の事に付五箇の文章を書け
- DOG (犬) の事に付一の短き composition (篇) を成せる數箇の文章を書け

注意

- 第一 同一の語を餘り屢々用ることなかれ、將た一回より以上同一の意思を啓ることなかれ
- 第二 都て野鄙の言辞を避けよ
- 第三 短小の文章を餘り多く連ることなかれ、短文は成る丈け纏ぎ合せて説話を一層



聞き好くなすべし。

第四 都て語を正しく綴る事、capitals(大宇)を規

則通りに用る事、一文章毎に period (●点)

を施す事に細心を注ぐべし、但し Propositions

(文章)及び phrases (短句) (comma (●点)を

以て分別するを通規とす) 茲に Propositions

云々とあるハ單純文章の時を云ふにあ

らち合成文章の場合にして各 proposition

の間に comma を挿入するの意なり、但し

單純文章に在てり period を用ひて句讀と

す) 以上四條の訓示は專ら composition を作る

に關する事なり。

○時の心得を知るべし)

左の文章を批難せよ

The cat has four legs. The cat catches mice. It is a

quadruped. The cat can catch mice and rats. It can catch

birds too. The cat has soft fur. She purrs when she is pleased.

I have an awful nice cat. His name is tabby. He is very

fond of me. Once it got scratched by a cat. The cat is a

useful animal in a House.

ideas(觀念)の結合充分ならざりて cat が catch する

語を反復す事多きに過ぐ。○文章皆短く

して開き悪し。○ capitals(大宇)の用ひ方と



句讀の施し方は誤り〇首の四文章中  
の悉く同一の idea を反復せることは是なり  
之を修正する事も試ることを左の如し

The Cat.

The cat is small quadruped, quite useful in a house, because  
it can catch rats and mice. It can catch birds, too. It has soft  
fur, and purrs when it is pleased. I have a nice cat, that is very  
fond of me. His name is Tabby. Once I was scratched by a cat.

左の題にて前と相似たる compositions (詩) を作れ

The Horse. The Cow. The Sheep. The Canary Bird.

The Eagle. The Lion. The Elephant. The Camel. The

Ostrich.

修正スル

improve

文体  
句讀法  
重複

stylo  
punctuation.  
repetitions  
(see 4)

Question for Review (練習に付ての問)

analysis (文章の解剖)の義を釋き定めよ  
〇文章の主眼の部分は何なるや  
〇 Proposition (文章)とは如何なる者ぞ  
〇 simple sentence (單純文章)の如何  
〇 phrase (短句)の如何  
〇文章の subject (被說者)の何より成るや  
〇 predicate (說事詞)の何より成るや  
〇 attribute (表性詞)の如何なる者ぞ  
〇如何様に文章が解剖せらるゝや  
〇文章の construction (構成)の如何なる事を云ふや  
〇 composition (編文)の如何なる者ぞ  
〇如何なる注意が示さるゝや

〔本課に示命せる篇の作文の如きは初學の徒に徒らに勞するも到底望み難きに付後篇の文章法の所



に至て學習するを良とす

CLASSES AND MODIFICATIONS OF THE PARTS OF SPEECH. (十品詞の分類及

び變化)

○第一課 ARTICLES (冠詞)の事

articles (冠詞)の DEFINITE (定冠詞)と INDEFINITE ARTICLE (不定冠詞)とに區分せらるる(本文 DEFINITE の下には article の語ある者と見做すべし) 又は數多の特殊なる物を表示する所の語なり、即ち The boy (其男兒) the oranges (其橘)の如し

are distinguished	區別セラル	sort	一様屬
whenever	何時ニテモ	kind	一品類
individual	獨一無類的	class	一部類

INDEFINITE ARTICLE (不定冠詞)は a 又 an の語にして

一種類中の一物を表示し別段是れと限り定めたる物を表示せざる所の者なり、即ち A boy (一人の男兒) an orange (一箇の橘)の如し

An a 同一の article (冠詞)なり、但 an の其次位に在る語が vowel sound (母音字の發音)を以て首となす時に用ゆ、即ち An art, an end, an heir, an inch, an ounce, an hour, An urn. の如し、又 a の其次位に在る語が consonant sound (子音字の發音)を以て首となす時に用ゆ、即ち A man, a horse, a wonder, a one, a yew, a use, a never の如し、右の如く a の音は他の文字にて代表しらるる時と雖ども其前位に a を要して an を用ることなし



(本文單に母音字、子音字と云わせして特に母音字の發音、子音字の發音と云ひたるは子音字を以て首となす語よても *hair* や *hour* の如くに其發音に至てり。や。の母音字を以て始る者あり又 *one* や *eye* の如く其首字の皆な母音字なれども實際の發音に至てきやの字を其の首字の前に加へたると同一となる者ありて母音字なればとて必をしも其前位に *h* を用ひ子音字なればとて必を *o* を用るとも限らざる實際の發音に依て應用するが故なりと知るべし)

Exercises (練習)

左の文章の各自に *An* 又 *A* なる *indefinite article* (不定冠

詞)を前加せよ

- Apple. Horse. Eagle. Hour. Youth. Watch. Aunt.
- Onion. Union. Yoke. Heir. Hero. Film. Honest man.
- Hair glass. Heirloom. Useful thing.

(右の例語の中にて注意すべきは Union 又 Useful の語に *u* を用ひざる事及び Honest の語に *an* を用る事の二者なり餘の前の例に照考すべし)

○第二課 NOUNS.—CLASSES. (名詞と其分類)の事

Nouns (名詞)を PROPER (固有)と COMMON (普通)の二大部に分別せらる

PROPER NOUN (固有名詞)とい或る殊別なる獨一者又の



人民又ハ群島連山の名ナリ、即チ Adam (人名)、Boston (市邑の名)、the Hudson (海灣の名)、the Romans (一國民の名)、the Azores (群島の名)、the Alps (一山脈の名)の如シ、  
**COMMON NOUN** (普通名詞)トシテ有生物又ハ無生物の一種類一部属の名ナリ、即チ Beast (獸)、bird (鳥)、fish (魚)、insect (蟲)、creatures (有生物)、persons (人類)、children (小兒)の如シ、  
 common nouns (普通名詞)の中に更に **COLLECTIVE** (群体名詞) **ABSTRACT** (無形名詞)及び **VERBAL or PARTICIPIAL NOUNS** (動詞)様又ハ分詞様の名詞と云へる特別なる分類あり  
 (collective & Abstract & of the noun の語ある心持にて讀べし)

第一類 **COLLECTIVE NOUN** (群体名詞)即チ **NOUN OF MULTI-**

substance 質体、木質

abstract 拔萃  
 multitude 群集  
 apart 別ニ離レテ

abstract (of p.)  
 multitude  
 apart

**TUD** (群集物の名詞)は獨一者の數多集合したる者の名稱ナリ、即チ council (議會)、meeting (集會)、committee (委員)、Flock (羊群)の如シ  
 第二類 **ABSTRACT NOUN** (無形名詞)は物の質体を云ふにあらざして或る特別なる性質、品格を示す名稱ナリ、即チ Goodness (善良)、hardness (堅硬)、pride (傲慢)、frailty (懦弱)の如シ  
 第三類 **VERBAL or PARTICIPIAL NOUN** (動詞様又ハ分詞様の名詞)ハ或ハ動作又現在する有様を示す名稱にして participle (分詞)と同じく verb (動詞)より成りて noun (名詞)として用る者ナリ、即チ The triumphing of the wicked is short (惡人の勝を制する事の短くある)の如シ (verbal & participial)



cpal と二種の名稱を附したるハ元來動詞よりれ成  
る語にして其語体の宛も分詞の一類と同様なるを  
以て孰れを云ふも通ずるが故なり

Exercises. (練習)

左の文章に於る noun (名詞) を類別して一々如何なる  
大分類又ハ小分類に属するかを説き示せ

John's father went to Philadelphia last week. The conven-  
tion was held in Albany, the capital of the State of New York.  
Cain showed the hardness of his heart in the killing of his brother  
Abel. The Hudson River was discovered by Henry Hudson.  
The Greeks gained many victories over the Persians. The  
Romans conquered many nations. London, the capital of Eng-

land, is situated on the Thames River.

(右例文中特に注意すべきハ convention の 群 体 名 詞 名  
る事、hardness の 無 形 名 詞 名 事、killing の 動 詞 様 の  
名 詞 名 事 以 して 其 他 人 名 及 び 土 地 山 川 人 民 の  
名 の 固 有 名 詞、其 餘 の 皆 一 般 の 普 通 名 詞 な れ ば  
別 に 説 明 を 要 せ ざる が 如 し)

○ 第三課 MODIFICATIONS.—PERSONS AND NUMBERS

(變化の内人稱と單複)の事

The boy runs. (其男兒が走る) The boys run (其男兒  
等が走る)

問 右の二文章の各にて何が subject noun (文主即ち被



説部の名詞であるか

問 何程其二語が違ふて居るぞ (原文中 they と受

け來りたるの前の問に對して假に *They & boys* な

り)と云ふの答をなしたる者と見做して問ひか

けたるものなりと知るべし)

答 第一の方は唯一を云ひ、第二の方は一以上を云

ふなり

問 之を表示する爲め *boy* と云へる語に如何なる變

化を生きるや

答 答と云へる文字を附け加るなり

右の如き變化を稱して MODIFICATION と云ふなり

Modifications (變化)は語其物に少しも變化を爲すことな

き時に在りての nouns (名詞)の用ひ方に依りて成す事

あり (例へば下に説ける主格と目的格に於るが如

き變化を云ふなり)

Nouns (名詞)に四種の modifications あり、即ち PERSONS (人稱)、

NUMBERS (數即ち單複)、GENDERS (性)、CASES (格)、是なり

PERSONS (人稱)の事

persons (人稱)との發話者と聽聞者と又單に説話の中

に述べ出せる人若くは事物との三者を區別する所

の modifications (變化)なり

PERSONS とり FIRST (第一)、SECOND (第二)、THIRD (第三)の三類

あり

FIRST (第一)人稱は演者又ハ筆者を示す所の者なり、即



addressed	消名サレタル	rarely	全前
consequently	之ニ山テ、因テ	unity	取一
seldom	稀ニ、幾ンドナシ	plurality	複合

ち Paul have written it. (ポールなる余の其を書きたりの)  
 如し(本文 Paul と變体の文字にて書きたるの第一  
 人稱の例を示したる所なり)  
**SECOND PERSON** (第二人稱)の聽者又の示名せられたる  
 人を表示する所の者なり、即ち Robert, who did this? (ロバ  
 ートよ誰が之を爲せしぞ)の如し  
**THIRD PERSON** (第三人稱)の單に説話論談中に述べ出し  
 たる人又の事物を表示する所の者なり、即ち James  
 loves his book. (ジェームスが彼の書籍を愛する)の如し  
 附言 演者の自ら己れの名を云ひて説話する事  
 稀れなれば隨て first person (第一人稱)に nouns (名詞)  
 を用る事亦た稀なりとす(我國の語にては演者の

大抵我と云ふ意の代名詞を以てすると同様なり)

**NUMBERS (數)の事**

**NUMBERS (數)**とて單一と多數とを區別する所の modifications (變化)なり  
 numbers (數)とて **SINGULAR (單)**と **FLURAL (複)**との二者あり  
**SINGULAR NUMBER (單數)**は唯一を表示する所の者なり、  
 即ち The boy learn. (其男兒が學問する)の如し  
**PLURAL NUMBER (複數)**は一以上を表示する所の者なり、  
 即ち The boys learn. (其男兒等が學問する)の如し  
 noun (名詞)の plural number (複數)と singular (單數)に s 又の es  
 を附加して作るを常則とす、即ち book, books; box, boxes の  
 如し



SINGULAR (單數) の語を PLURAL (複數) の体にする法

第一 singular noun (單數の名詞) が s 字の音と合同して差支なき音を以て語尾を成し居る時の唯 s 字丈  
けを附け加へて plural (複數) を作るを通例とし而して別に syllables (切音) の數を増す事なし、即ち pen, pens; grape, grapes. の如し

第二 然れども若し primitive word (原語) の語尾の音が s 字の音と合せ難き時に、結尾に o 字あれば s 字丈けを附け加へ他の語尾なれば、ss を附け加へて plural (複數) を作り而して更に別立の syllable (切音) を成すなり、即ち page, pages; fox, foxes. の如し (page の g 字

の音及び fox の s 字の音、h 字の音に近くして重ね發する能わざ、故に ss を以て一切音となして發音するなり)

第三 Noun (名詞) の結尾が o 字にして且つ其前位に consonants (子音字) 在る時は ss を加ゆ、然れども別に syllable を増す事なし、即ち mollo, molloes; hero, heroes. の如し、但し。字にて結尾をなせる自餘の nouns は s 字丈けを加ふ、即ち folio, folios. の如し (此末文の意を數延すれば前記の如く同じ。字にて結尾をなす名詞までも。字の前位が子音字。よあらしめて母音字なる時に、o 字丈けを加へて複數を作る) と云ふ事なり)



第四 *e*字にて結尾をなし且つ其前位に consonant (子音字) 在る Nouns の其 *e*字を *s*字に換へたる上にて更に *es*を加ふ、然れども尙は syllable を増す事なし、即ち *fly, flies; duty, duties.* の如し、但し *e*字を以て結尾をなす自餘の nouns は *s*字のみを加る者とす、即ち *day, days; valley, valleys.* の如し

第五 *f*字を以て結尾をなす所の左の nouns 即ち *sheaf, loaf, loaf, beef, thief, calf, half, elf, shelf, self, woof, wharf.* は *f*字を *e*字に換へたる上にて *es*を加ふ、即ち *sheaves, leaves* 等の如し、*Life, lives; knife, knives; wife, wives* も亦同し

第六 *g*字及び *ge*の字にて結尾したる noun 中正則に従ふ者尙は多數なりとす、即ち *gives, strives, chiefs, griefs, gulfs.* 等の如し (此條の前條に *g*字を *e*字に換へたる上にて *es*を加ふと云ふたるを受け來て然る變則に従ふ者もわれども *g*字及び *ge*の字にて結尾をなしたる名詞にても正則に従ひて *es*又 *es*を加へて複數となす方變則の方よりの更に多數なりと云ふの意なり)

第七 外國語を其儘に襲用する noun の其國語本体の plural を存する者衆しとす、即ち *arcanum, arcana; radius, radii; vortex, vortices; axis, axes; phenomenon, phenomena; seraph, seraphim.* の如し

第八 左の語の皆な太だ不規律なる者とす、即ち *man, men; woman, women; child, children; brother, brethren [or bro-*



thers]; fool, feel; ox, oren; looth, tell; goose, geese; louse, lice; mouse, mice; die, dice penny, pennies の如し。右の内<sup>○</sup>に在る同<sup>○</sup>語にても stamps (印) の義を表はせる Dies の語及び colus (錢) の義を表はせる pennies は正則に従へり (此 Dies の單數は die pennies の單數ハ penny にして共に一語にて兩義を有し複數にて互に其形を異にす、即ち dice と云ふ時ハ骰子<sup>さいご</sup>の事になり pence と云ふ時ハ邊尼<sup>ぺニ</sup>とて貨幣の稱となるなり)

第九 或ハ單複共に同体にて變せざる者あり、即ち sheep, deer, swine, hose, means, odds, news, species, Series, apparatus の如し

第十 Compounds (合成語) の中にて主たる語を首位<sup>はつち</sup>に置

き在る者は plural を作るに其主たる語の方を變じ、possessive case (物主格) を作るにハ附屬語の方を變ぜる者とす、即ち father-in-law, fathers-in-law, father-in-law's の如し (物主格の事は次課に入るを俟て知るべきなり)

第十一 ful の語を以て終る Compounds (合成語) 及び主語を後に置ける該語は他の nouns と同一の法則に従ふて plural を作る者とす、即ち handfult, spoonfult, mouthfult, fellow-servants, man-servants の如し

第十二 Nouns of multitude (群體名詞) は之を其群集せる者を一体にしたる意に取る時ハ plural の体を成すを得、即ち meeting, meetings の如し、然れども一箇づハ別々に見做す時にハ其体は變せざるも自ら plural の



意味を有つなり、即ち *The jury were divided* (陪審官が分  
けられし)の如し(此 *jury* の語は單數なれども英國  
にての陪審官は十二人を定員となす者にして之  
を一人づゝの事にして見る時は其意は即ち複數とな  
るなり故に *Were* を云へる複數の動詞を用るなり)

附言或る nouns は全く plural の体を有たず即ち *gold, pride, meekness* の如し、又或者は全く singular の体を  
有たず、即ち *bellows, ides, tidings, scissors, longjs, vespers* の如  
し

Exercise (習練)

左の nouns を plural number (複數)にて書き

*Child, box, life, tree, mouse, foot, tooth, knife, ox, brother,*

- (2) collectively 一統ニ、合一ニ
- (3) distributively 各自殊別ニ

*radius, woman, goose, axis, handful, hero, loaf, vortex, basis, cargo, lady, sheep, success, meeting, species, die, means, apparatus, phenomenon, brother-in-law.*

○第四課 MODIFICATIONS.—GENDERS AND CASES (變

GENDERS (性)の事

GENDERS (性)との陰陽に依りて物を區別する所の *modifications* (變化)を云ふなり  
Genders (性)は MASCULINE (男) FEMININE (女) NEUTER (中)の三あり  
MASCULINE GENDER (男性)は陽属の人類又ハ動物を表示  
する所の者なり、即ち *man* (男) *father* (父) *king* (王)の如し

- (4) object 物 (右標無標ヲ問ハズ)
- (5) context 前後ノ文勢
- (6) literally 正則ニテ
- figuratively 假設ニテ
- in regard to 關シテ、關テ



FEMININE GENDER (女性)は陰屬の人類又の動物を表示する所の者なり、即ち *woman* (女)、*mother* (母)、*queen* (女王)の如し、NEUTER GENDER (中性)は陽にても陰にてもあらぬ者を表示する所の者なり、即ち *pen* (筆)、*ink* (墨汁)、*paper* (紙)の如し、  
 nouns (名詞)の中に、男女両性に用るを得る者あり、即ち *cousin* (従兄弟又の従姉妹)、*friend* (朋友)、*neighbor* (隣保、*parent* (雙親)、*person* (人)、*servant* (雇人)の如し、又或る nouns の時として *common genders* (両通性)即ち陰陽の性を兼有する者と呼ばるゝ事あり、又時として、前後の文勢に依りて陰陽を判別する事あり、  
 陰陽を表別するの法三あり、即ち左の如し

第一 一々異なる稱呼の語を用るを以てする事、即ち *bachelor* (未娶男)、*maid* (處女)、*boy* (男兒)、*girl* (女子)、*brother* (兄弟)、*sister* (姉妹)、*buck* (牡鹿)、*doe* (牝鹿)、*bull* (牡牛)、*cows* (牝牛)、*cock* (牡雞)、*hen* (牝雞)の如し、  
 第二 各自に異なる語尾を用るを以てする事、即ち *abbot* (僧長)、*abbess* (尼長)、*hero* (英雄)、*heroine* (女丈夫)、*administrador* (男戶主)、*administratrix* (女戶主)の如し、  
 第三 陰陽を表別するに附屬語を前加するを以てする事、即ち *cock-sparrow* (雄雀)、*hen-sparrow* (雌雀)、*maid-servant* (男雇人)、*maid-servant* (女雇人)、*he-goat* (牡山羊)、*she-goat* (牝山羊)、*male-relations* (男親屬)、*female-relations* (女親屬)の如し、  
 附言 生活なき者を稱する名は正格に用るに



常に neuter gender (中性) を以てす、然れども生なま活なまなまきま物ものもも營なま險なまにての履なまをなま男女なま両なま性なまの内なまをなま有なまつなま者なまと見なま傲なまして用なまるなま事なまあり、但し威なま勢なま、偉なま大なま、或なまのなま高なま貴なまを以て著なま顯なまなる事なま物なまのなまmasculine (男性) として説なまかる、即ち the sun (太陽) time (時間) 又なまのなま時なま節なま death (死亡) sleep (睡眠) fear (恐怖) anger (憤怒) winter (冬) war (戦争) の如なまきはなり、又飽なま麗なま、温なま和なま、或なまのなま繁なま榮なまに属なまする事なま物なまは feminine (女性) として説なまかる、即ち the moon (太陰) earth (地球) nature (天然) 又なまのなま宇なま宙なま fortune (富有) knowledge (知識) hope (希望) spring (春) peace (平和) の如なまきはなり

CASES (格) の事

CASES (格) とし nouns (名詞) 及び pronouns (代名詞) の他の語

に對する關係を表別する所の modifications (變化) を云ふ」 cases (格) に三種の別あり、NOMINATIVE (主格) POSSESSIVE (物主格) OBJECTIVE (目的格)、是れなり

NOMINATIVE CASE (主格) は noun (名詞) 又なまのなま pronoun (代名詞) が通例 finite verb (定法動詞) の主なまである時なまの形なま体なま又なまのなま有なま様なまなり、即ち The boy runs (其男兒が走る) I run (我が走る) の如なまし (定法動詞) の事なまのなま第十課なまの動詞なまの條なま中に詳なまかなり、但し簡單なまに之なまを釋なまけなまば主格なまたる名詞なま又なまのなま代名詞なまに直接なまに屬なまする動詞なまを云なまふ、是なまのなま此例文なまの如なまく一文章なま中に動詞なまが一語なまより外なまなき時なまに別段なまに名稱なまを附なまするの効用なまのななまければ、同文中なまに動詞なま二三語なまある事なまありて、其際なま直接なまに主格なまの語なまに屬なまする方を



所有格  
被ル。受ル

(4) property  
(5) undergo

定法動詞と呼び次位に属する方を不定法動詞と呼びて區別するなり、又本文に形體又の有様と二様に記する所以の名詞の方にては物主格の外何格にては其形體を變ずる事なく唯だ其位地に依て其何格たるを表別する者なるが故に之を其時の有様と云ふべく之に反して代名詞の方は格に依て一々其形體を異するが故に之を其時の形體と云ふにあり  
POSSESSIVE CASE (物主格) (noun 又は pronoun が通例所有の關係を表示する時の其有様又の形體なり、即ち *The boy's hat* (其男兒の帽子) *my hat* (我的帽) の如し  
OBJECTIVE CASE (目的格) は noun 又は pronoun が通例 verb (動詞) participle (分詞) 又は preposition (前置詞) の目的を表示す

風曲。轉位  
風曲セラル、

(1) declension  
(2) are declined

る時の其形體又の有様なり、即ち *I know the boy* (我の其男兒を知る) *he knows me* (彼の我を知る) の如し  
語の元來之を組立る所の文字より成れる者なり、故に語中の文字變せれば隨て其形體變るなり、是を以て plural number (複數) を表示する爲め *boy* なる語の形體を變じて *boys* となし、*fox* の語を變形して *foxes* となし、又或は feminine (女性) を表示する爲めに masculine gender (男性) の Nouns の形を變る事あり、即ち *abbot, abbess; hero* *heroine* の如し、然るに獨り case (格) の一点に至ては英語に在ては Nouns の之を表示する爲め possessive (物主格) を除くの外一も變化を受る事なし  
nouns の possessive case (物主格) *the singular number* (單數) にては



nominate (主格)にs字を加へ其前に *apostrophe* (点)を附して作り又 plural (複數)に在つ nominative がs字にて終尾を結び居る時唯だ *apostrophe* だけを加へて作るなり、即ち *boy, boy's, boys* の如し

DECLENSION OF NOUNS (名詞の整位)の事

noun 又く pronoun の DECLENSION (整位)と云ふ其 numbers (數)及び cases (格)の規律正しき裝位を云ふなり、Nouns に左例の通りに變成せらる (但し Nom. は nominative の略語 Poss. へ possessive の略語 Obj. へ objective の略語と知るべし)

EXAMPLE I. (例 1) FRIEND. (朋友)

Singular.

Plural.

Nom. friend, friends,  
Poss. friend's, friends'

Obj. friend, friends.

EXAMPLE II. (例 2) MAN. (人)

Nom. man,

Nom. men,

Poss. man's,

Poss. men's,

Obj. man;

Obj. men.

EXAMPLE III. (例 3) FOX. (狐)

Nom. fox,

Nom. foxes,

Poss. fox's,

Poss. foxes',

Obj. fox;

Obj. foxes.

EXAMPLE IV. (例 4) FLY. (蠅)



Nom. fly, flies, Nom. flies,

Poss. fly's, Poss. flies',

Obj. fly, Obj. flies,

Exercise (習練)

同式に由て左の名詞を變成せよ

Goose, sheep, child, mouse, woman, wife, ox, horse, James,

boy, lady, bird, prince, princess, teacher, scholar, parent,

father

(右の數語を變成するには格の方は容易なれども數の方は誤る事なきを保しぐたければ能く注意するを要す、依て諸語中よて正則に従わざる者のみを茲に示し置くべし、即ちGooseの複數はGeese、sheepは單複共

に同休、childの複數はchildren、mouseの複數はmice、wifeの複數はwives、Jamesは人名にして複數なし、ladyの複數はladiesなり)

Exercises in Analysis and Parsing. (解剖及び説明に

於る習練)

第三十六丁に於る數例に従ひて左の文章を解剖し而して左の例に於る通りに諸語を説明せよ (第三十六丁の言語法第一套第十五課解剖の章中に示例せる條々にして即ち前編の末にあり)

Example (例) A bad boy took the bird's nest. (一の惡き男兒が

其鳥の巢を取りし)

A is indefinite article (不定冠詞)にして boy と nest の noun







又云く *verb* の *object* (目的) なれハなり

The cat has caught a mouse. The dog caught a fox. The cow gives rich milk. The tree produces much fruit. The fire destroyed many fine buildings. The eagle has a piercing eye. William lost Mary's new book. How did John break the boy's slate? Foxes' tails are generally very long. The bird's plumage is quite beautiful. Birds' feathers are very light. The emperor's work was toilsome. Caesar made many conquests. Rome had many great generals. Washington's character was truly great. A soldier's life is always perilous.

*Exercises in Construction.* (構文に於る習練)

第一 各自に *nominative case* (主格) の *noun* を有する三種

の文章と各自に *objective case* (目的格) の *noun* を有する三種の文章と又各自に *possessive case* (物主格) の *noun* を有する三種の文章を書け

第二 *nominative case* に於る一の *noun* と *objective case* に於る一の *noun* と *possessive case* に於る一の *noun* を有する一の文章を書け

第三 各自に左の語中の一又は多數を有する所の數文章を書け

Man's, farmer's house, barn, field, ploughing, planting, sowing, seed, lakes, rivers, streams, fish, net, Charles's, boat, ship, school-master, loving, kind, teacher, parents', obey, commands, disobedient, never, wrong, always, truth, brothers, sisters, beau-



tiful, disgraceful, courageous, James's, Charles's, Williams's,

princes, princess's, brother-in-law's.

附言 possessive case を作るに s 字のヌー／＼云ふ發

音の重なるを避る爲め時どして s 字を省きて單

に apostrophe だけを附する事あり、即ち Moses' red; the

princess' portrait; for conscience' sake の如し、然れども規則上

に於ての何時も s 字を用ゆべき筈なりと心得ふ

べし。

possessive case (物主格) に於る noun の adjective adjunct (形容詞

様の補助詞) なり、又 of と云へる preposition (前置詞) と object-

ive case に於る noun を用ひて單節なる phrase adjunct (短句

の補助詞) に變ずるを得るなり、即ち The deer's horns (其鹿

の角) が The horns of the deer (其鹿の角) と同一なるが如し

(形容詞様の補助詞) の形容詞に似たる位地を占るを

以て附したる稱にして例へば deer's horns と云へば horns

の主詞にして deer's は其補助詞なるが如く又短句の

補助詞と horn of the deer の如くに己に變化して短句

となりたる時 horns は句中の主詞にして deer は其補助

詞となるが如き場合を云ふなり。

第四 左に出せる phrase form (短句体) を possessive (物主格)

に、又 possessive を phrase (短句) に換へて各自に

の文章を作れ

The cunning of the fox. The sagacity of elephants. The

bleating of the sheep. The diamonds of the princess. Birds'



nests. The kindness of the lady. The dresses of the ladies.  
 The king's authority. The teacher's efforts. The patriotism of  
 Washington. The enterprise of Columbus. The kindness of  
 William Penn. The telescope of Lord Rosse. The works of  
 Charles Dickens.

第五 *singular* & *plural* の語を用ひ且つ *nominative* *poss-*  
*essive* *objective case* の三者を具くし SHEEP (羊) の事に付  
 き三種の文章を書け  
 第六 左の者等の事柄に付同様の法にて三種の文  
 章を書け

Tooth, valley, fox, calf, fly, father-in-law, spoonful, goose,  
 child, woman, nephew, niece, empress, governor, governess.

Questions for Review (複習に付ての問題)

articles (冠詞) は如何様に類別せらるるか ○ 一類づゝ之  
 を釋き定めよ ○ noun (名詞) が如何なる總類に分かた  
 るるか ○ 一類づゝ之を釋け ○ common nouns (普通名詞)  
 の内に如何なる特別の種類あるや ○ 一類づゝ之  
 を釋き定めよ ○ modifications (變化) と如何なる者を云  
 ふや ○ nouns の modifications とは如何なる者ぞ ○ 一づゝ  
 之を釋き定めよ ○ persons (人稱) は幾千あるや ○ 一づゝ  
 之を釋き定めよ ○ numbers (數) は幾千あるや ○ 一づ  
 之を釋き定めよ ○ nouns の plural number (複數) は正則に  
 て如何にして作り做すや ○ 不規律なる plural (複數) の  
 作り方の若干を示せ ○ genders (性) は幾千あるや ○ 一



づゝ之を釋き定めよ○如何なる際よ *gender* を *common gender* (兩通性) と云ふべきか ○ *sexes* (男女) は如何なる法を以て表別するや ○ *nouns* に *cases* (格) が幾干あるや ○ 一づゝ之を釋き定めよ ○ 語の形体と如何なる者を云ふや ○ *possessive case* (物主格) の如何にして作り做すや ○ *noun* の *declension* (整位) と如何ぞや ○ *friend, man, fox, fly* を整位せよ

○ 第五課 ADJECTIVE-CLASSES (形容詞の分類)

*Adjective* (形容詞) の六種類に之を分つを得、即ち **COMMON** (普通) **PROPER** (固有) **NUMERAL** (數) **PRONOMINAL** (代名詞様) **PARTICIPIAL** (分詞様) **COMPOUND** (合成) 是なり

**COMMON ADJECTIVE** (普通形容詞) の尋常の *epithet* (形容詞) 即ち性質、品格若くは位地を表示する所の *adjective* (形容詞) なり、即ち *Good* (善) *bad* (惡) *peaceful* (平穩なる) *warlike* (戰爭の) *eastern* (東位の) *western* (西位の) *outer* (外面の) *inner* (内面の) の如し

附言 *epithet* と云くる語に *adjective* と同一の意味にして *added to* (附加したる) と云ふの義を示せり

**PROPER ADJECTIVE** (固有形容詞) は *proper name* (固有名詞) より作り成す所の者なり、即ち *American* (亞米利加の) *English* (英吉利の) *Platonic* (プラトンの) の如し

**NUMERAL ADJECTIVE** (數形容詞) は *definite number* (定數) を表示する所の者なり、即ち *One* (一) *two* (二) *three* (三) *four* (四) 等